

昭和五十一年六月招集

第二回館山市議定会定例会會議錄第二号

館山市議會





# 目次

日時	場所	出席議員	欠席議員	出席説明員	出席事務局職員	議事日程	開議	議長の報告	行政一般通告質問	渡辺軍治郎君の質問、当局の応答	林 豊君の質問、当局の応答	鈴木 正義君の質問、当局の応答	安西 益男君の質問、当局の応答	辻田 実君の質問、当局の応答	散会	本日の会議に付した事件
一	一	一	一	一	一	一	二	二	二	二	一	一	二	三	四	四

一、昭和五十一年六月十四日（月曜日）午前十時

二、館山市役所議場

三、出席議員 三十名

一番 吉田勇治郎	二番 伊藤幸太郎
三番 穴戸寿夫	四番 押元 稔
五番 黒川平治	六番 鈴木正義
七番 本間昭二	八番 松下正己
九番 鈴木 稔	一〇番 流山源次郎
一番 近藤好雄	一二番 栗原一雄
一三番 林 豊	一四番 石井輝久
一五番 辻田 実	一六番 安西益男
一七番 石井武敏	一八番 渡辺軍治郎
一九番 渡辺昭夫	二〇番 和田一郎
二一番 田中祿郎	二二番 五十嵐 昇
二三番 菊井敏博	二四番 西村真次
二五番 伊賀多朗	二六番 藤田益治
二七番 速山ヨネ子	二八番 石井 正
二九番 望月照正	三〇番 山口 康

四、出席説明員 なし

五、出席説明員

六、助役 吉野茂樹

七、出席事務局職員

八、議事日程（第二号）

九、第一号に同じ

一〇、議事日程（第二号）



昭和五十一年六月十四日午前十時開議

日程第一 行政一般通告質問

### 開 議 午前十時二分開議

○議長（吉田勇治郎君） 本日の出席議員数二十八名、これより第二回市議会定例会第二日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事は、お手元に配付の日程表により行います。

### 議長の報告

○議長（吉田勇治郎君） この際、申し上げます。

本定例会の説明員に吉野助役が出席する旨の通知がございましたので、報告いたします。

### 行政一般通告質問

○議長（吉田勇治郎君） 日程第一、これより通告による行政一般質問を行います。

締め切り日の六月九日正午までに提出のありました議員、要旨及びその順序はお手元に配付のとおりであります。

これより順次質問を行います。

なお、この際申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり他に関連質問等の発言もあろうかと思いますが、本日は通告者のみといたします。

発言の方法は、最初の発言を二十分以内とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて三十分以内といたします。

これより順次発言を願います。

一八番議員渡辺軍治郎君。

（一八番議員渡辺軍治郎君登壇） （拍手）

○一八番（渡辺軍治郎君） 私は、三点について質問したいと思えます。

第一は国道一二七号線バイパス問題、第二は水道問題、第三は競馬、競輪の場外売り場の問題についてであります。

第一の国道一二七号線バイパス問題についてですが、昭和四十二年十二月九日沿道市町村長の連署によって建設省、大蔵大臣にバイパス路線新設の陳情が行われています。

陳情の趣旨は観光、産業等自動車による道路利用率の増大から一二七号線の渋滞をなくすため、バイパス路線の新設を要望したものであります。

昭和四十九年十二月、館山市の要請によって、バイパスを市道昭和橋通りであります。にのせて建設することが決定され、五十年十月建設省係官により説明会が二日間、四カ所で開かれ、五十年三月には那古地区関係の要請で説明会が行われていますが、関係者が了解しないうちに一方的に測量が実施されたため、富浦、館山の一部では測量を拒否して反対の運動が起こっています。

また、これに対立して、五月二十四日館山商工会議所、商店会連合会、観光協会の主催で、バイパス促進の協議会が開かれています。

車の渋滞するところでは、バイパスを期待していますが、路線については疑問を持っている人たちもいます。多くの市民には知られていないというのが実情だろうと思います。



問題点を挙げますと、計画されているバイパスは、鴨川、千倉方面への車の通過道路でありますから、市道にのせるという点でも疑問があります。また、車優先の四車線の必要があるかどうかという疑問もなされております。これは沿道の騒音、排気ガスによる公害、バイパスを横断することによって起る人の交通や農作業への障害が考えられます。また、路線の用地となる関係者は土地や建物が取られるので、財産権や営業権に対する完全な補償が必要であります。これらの問題点に対して、納得のいく説明はなされておられません。

最大の問題は、バイパス道路にしても、都市計画道路にしても市民や利害関係者の知らないところで計画され、一方的に押しつけられるというのが現状であります。

都市計画や道路の建設は、館山市の発展にとって、また市民の生活や権利に大きな影響を及ぼす重要な問題でありますので、計画の原案段階から市民の意見を広く求め、市民の納得と協力のもとに、議会の承認を得て実施すべきだと考えます。

そこで、お尋ねしますが、国道一二七号線バイパス道路や都市計画道路について、広く市民の意見を求め、利害関係者も含めて再検討する必要があると思いますが、どうか、お伺いします。

第二は、水道問題についてですが、市民は毎年夏の水不足に悩まされてきました。市長も今年は市民に迷惑をかけないようにと鋭意努力していると聞いていますが、十分な水の確保ができるのかどうか、お伺いします。

また、一昨年房州水道を買収の際、マイナス面の評価として、施行規則に違反した下水路や排水路内に配管のあることを指摘し

ましたが、放置すれば汚水浸入の危険もあり、問題だと思えますが、その後どう対処されているか、お伺いします。

第三は、競馬、競輪の場外投票券売り場の開設を関係機関に要望することを決め、館山市長名で農林省、通産省に要望書を提出したと聞いております。

また、放送協会やテレビ局に対しても、競馬、競輪の実況放送は暴力団の資金源に悪用され、ギャンブル熱をあおるため、テレビ、ラジオの自粛を求めるといふ要望書を提出しているようですが、一方ではギャンブル熱をあおり、一方ではギャンブル熱の自粛をといて首尾一貫しない矛盾したことになっていますが、その真意がどこにあるのか、お伺いしたいと思います。

以上で、質問を終わります。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 渡辺議員の御質問にお答えいたします。

第一点は、国道一二七号線バイパスの建設をめぐる混乱が見られるけれども、再検討する必要があると思うがどうかという御意見でございますが、国道一二七号線は極端な道路渋滞にかんがみまして、沿道の市町村長が国に働きかけ、建設省が実態調査をしてバイパスの建設を計画しているものでございます。

この計画は、館山市都市計画道路についても十分配慮が行われているわけでございますので、バイパスのために都市計画道路を再検討する考えは現在のところございません。

第二点 水道問題についてでございますが、その第一点は、夏の水不足対策についてでございますが、この夏の水不足対策として、深井戸及び浅井戸等によりまして、一日千トンの水量を確保



する計画でございます。

この事業計画に対しまして、現在宮城浄水場に一日五百トン処理できる急速ろ過池を増設中でございます。また、見物浄水場内に深井戸を設けることとすでに掘削を終り、一日二百トン取水できる見通しとなっております。このほか浅井戸四井ということとで現在工事に着手しております。この場所としましては、館山地区一カ所、北条地区三カ所となっております。このような応急対策によりまして、一日千トンの取水を図るとともに、各水道施設の相互援助によって有効的水の確保と、三芳水道からの受水により水道供給に支障のないよう努力をしていく考えでございます。

第二点の下水、排水路の配管の問題でございますが、配水本管から分岐して各戸に供給する小口径の管が中央水道管内で下水路排水路等に一部あるのは御指摘のとおりでございますが、これは水道維持管理の上からも適切な方法ではございませんので、配管替えをしていく考えであります。

この配管替えについては、市街地において住宅の密集している場所あるいは道路占用の許可等配管に困難なところもございませうけれども、いままでも測溝工事等に合せて改良工事を実施をしてまいりましたので、今後なるべく早い機会に改善をしていく考えでございます。

競馬、競輪の場外売り場開設の是非についてでございますが、競馬、競輪が国を初め地方公共団体においても金銭をかけたギャンブルとして公的に認められておりまして、かつその収益が住民のために使われている現状では、公営ギャンブルを健全なレジャ

ーとして都市、地方を問わず均等にその機会を得たいとすることは、人間に射幸心がある限りやむを得ないことではないかと考えております。

現在の館山市において、暴力団の資金源の多くはノミ行為によるものであることはいなめない事実でございます。暴力団の黒い資金につながる違法なノミ行為よりも、公営の場外馬券売り場ができ、健全に運営され、安心して楽しめることができれば、暴力団追放の一つのきめ手になるものと考えております。

しかし、現実に競馬についての場外投票券売り場の開設は、昭和三十八年内閣諮問機関の協議の中で、競馬の場外投票券売り場をこれ以上ふやさないということの決定、答申がございました。さらに競馬法により中央競馬会がみずから設置しなければならぬため、人員、経費の点で無理があるというのが現状でございます。

なお、競輪の場外投票券売り場は現在設置されておりません。以上、御答弁申し上げます。

〇一八番（渡辺軍治郎君） 市長さんの答弁では、国道一二七号線のバイパス道路の問題については、一二七号線の渋滞をなくすために建設省と計画して実施されたものであるし、再検討する考えはないということですが、この一二七号線バイパス道路の建設というのは昭和四十三年ですか、かなり前に新設を要望したものであって、現在の市道である、これは都市計画道路にもなっておりますが、すでにできている都市計画道路にのせるということは、私たちこれが発表されるまで知らなかったわけですが、どこで、それが、どのようにしてこういう計画をされたのか。それをお伺い



したいと思います。

○建設課長（飯田治男君） 国の計画につきましては、これは国の方で計画を立てまして、市の方に協議がきたわけでございます。国の千葉の国道事務所の方で計画をしたものでございます。

○一八番（渡辺軍治郎君） 私が一番問題だと思うのは、国が計画したからもうそれに従えというような形で現在出てきているわけです。

少なくとも、市道の建設は、あるいは館山市の都市計画道路というのは、館山市の発展と市民の生活環境をよくする。そういうような立場から市道計画というものはなされていると思うんですがね。そういうたてまえだとすれば、市道を国道にのせるといふようなことは条件が大きく変わるわけです。しかも、計画されている四車線のバイパス道路というのは、これは自動車の通過道路はつきり言つて市道とは性質が違ふ。そういうような問題が起つてきたときに、市民に相談なしに、建設省だけにおまかせでいいのかどうか。そのへんはどうお考えになりますか。

○市長（半澤良一君） ただいま、建設課長から御答弁申し上げます。したように、国が計画を立てたものでございますけれども、その路線が館山市の計画道路にのつてゐるわけでございますので、市の計画と合致いたしているわけでございますので、これを認めてこの計画を賛同いたしているわけでございます。

○一八番（渡辺軍治郎君） 建設省が決めたわけではないんです。市から要請があったから、これは建設省との話し合ひで市道にのせることが決まったと、そういうふうに前から聞いているわけです。これは全員協議会でもそういう話があったと思うんですが、

市民の生活や館山市の発展にとって非常に重要な道路の問題を市民の知らないうちに、しかも、その道路に係る人たちが知らないうちにこういう問題が決められて、建設省で決めたから従えという一方的なやり方は、これは問題だと思ふんです。

市長さんの考えは、要約すると、建設省で決めたことだから、市民に相談しなくてもいいというふうに聞き取れますが、これは一七号線の問題だけではないに、都市計画道路の、これは土木課長や全員協議会で聞いても、市民に広く意見を求めて、そうして利害関係者とも話し合つて道路計画はしてないんです。土木課長に聞いたところでは、私どもにはそういう知識がありませんと、それだから、県のそういう経験を持っている人に来てもらつて線を引いたと言っています。

たとえば、そういう経験者が線を引いたとしても、ここにこういう道路ができるんだということ、館山市の発展から考え、またそれに関係する人たちから、利害関係から見ても相当これは相談してやらなくちゃできないことだと思ふんです。

だから、再検討を、これは都市計画道路を含めて再検討する必要があるだろうということを言つてゐるわけで、国のきめ方の発端に大きな問題がある。そこをどうお考えになるのか。そこをお聞きしたいと思います。

○市長（半澤良一君） 現在の都市計画道路につきましては、専門家の意見を聞きながら市独自で決定いたしましたものでございまして、館山市の将来計画の中で決められた問題でございますので、これを実行していくのがわれわれの仕事だと思つております。そういう意味で、バイパスがこの道路計画にのっておりますので、館山



市の基本計画と合致しているわけでございますので、これを認めているわけでございます。

○一八番（渡辺軍治郎君） 私がお聞きしているのはですね。そういう館山市の発展にとって重要な問題だし、館山の市民の権利や生活にとって非常に重要な問題を一方的にきめていいかどうかというところをお聞きしているんです。どうなんですか、それは。

○市長（半澤良一君） この都市計画道路につきましましては、いまきめたものではございませんで、すでに四十三年に、確か四十三年だと思いますが、きまっていることで、議会の承認を得ていることでございますので、それに従ったわけでございます。

○一八番（渡辺軍治郎君） 議会の承認を得ているというようなことを私は議員になって一度もそういうことを聞いてないんですがこれは元の本間市長の時期にやったことで本間市長は商工会議所に三回も呼びつけられて、利害関係者に相談もなしにやったというところかなり怒られているわけです。議会で問題になったことはないと思います。

○建設課長（飯田治男君） 現在の都市計画街路につきましては、その当時千葉に都市計画地方審議会というものもございまして、その委員に議員の中から選ばれて委員になっておられた方がございます。その方たちが一応議員の代表者ということでその審議会に参加しまして、それから地元の市長、それから議員さんの代表者ということで都市計画審議会でも審査しまして決定されたものでございます。

○市長（半澤良一君） ただいま私の発言少し間違いがございましたので、議会の承認というのは、いま私思い込んでおりました

が、ただいま建設課長の御説明したとおりでございますので、訂正いたします。

○一八番（渡辺軍治郎君） 結局ですね、重要な問題をきめるのに委員がそういう審議会だとか、そういうところに出るにしても、地元の意向とか、そういうものを確かめないでただ行って、そこで決まったからいいということではないと思うんですよ。一応そういう素材は、こういう計画があるということは決まったとしても、決まったのちにそれをたたき台にして、市民やその道路に係のある利害関係者を集めて話し合いてやっぱり決めていく。納得づくでいくということをやらなかつたら絵に書いたもちで、結局反対が起きた場合にできないんじゃないか。そういう点はどうか考えになりますか。

○建設課長（飯田治男君） 都市計画街路の決定につきましては、計画を決めまして実施する段階で関係される方々と十分な話し合いの上、工事を実施していくということがいままでも私も国、県から行政指導を受けております。

ただ、都市計画法が改正されたのちは、審議会にかける前に一応都市計画案の時点で、一般住民に供覧いたしまして、意見があれば意見書の提出という方法に法が改正されたのちはなっております。私もその後、これは街路ではございませんが、用途地域等の決定につきましては、改正された方法で実施いたしております。

○一八番（渡辺軍治郎君） たとえばですね。私の家も都市計画道路の中に入っているんですが、ここは、私の家は新塩場で門田という歯医者があります、門田歯医者のところを真っすぐに突き切



って図書館の東側に出る。図書館が建設されたときには、図書館の東側が都市計画道路を予定してあそこはあけてあるわけです。

しかし、私たちにはいままでもそういうことは一回も、告示のような形で市民の意見を求めるということをやっと出したぐらいで地元の人たちは知っていない。あそこの道路だとすれば、あそこから図書館までは全部道路の予定地の中に家が建っています。

一体、そういう土地を取られて、家を移転しなければならぬというようにことに対して、どうか補償がされるのか。そういうようなことも全然話もないで、ここは道路に決まったんだから実施の段階で話をするというようにことはいま答弁しておりますがね。

いままでも、県の道路にしても、やっていると、大体測量をして実測の地図ができますと、その用地内にあるところには直接個別折衝でもってやっているとというのが実情ですよ。

その前に、一体土地や家に対してはどういう評価をするのか。そこから移転した場合には、損害に対してどういう補償をするのか。そういうようなことがはっきりしないで、ただその実施の段階で話し合いをするといつても、そう簡単にはいかないと思うんですよ。

これは、用地の中にある人は、そこにある土地よりもよりよい土地にありつくというのがいまの情勢の中では考えられない。しかも、営業している人は、その地域で四十年も、五十年も営業して御得意さんもあるし、新しいへんびな土地に移った場合には営業に対する損失というのも考えの中に入れなければいけないわけです。

住居にしても、現在住んでるところよりも悪いところに住むとまた、家もいま考えられておるような減価償却を引いて、残存価額で評価するとか、しかし、新しい土地に家を建てれば一千万もかかる。土地や家を評価された金でそこに家が建つかというと、金のない人はそういうふうなわけにはいかない。そういう問題も明らかにされないで、ただ建設省と話し合いで決まったことだから、それに従えとか、都市計画道路をつくって、地元のそういう関係者とも何の話し合いもなしに線が引かれる。そこに住んでる人たちが不安にさらされているわけです。将来これは少なくとも計画する段階で、これは市長にとつてもそうですよ。あの昭和橋通りが館山市の発展にとって必要だから市道として建設したわけです。国道になるということでも大きく変わるわけです。すでにできている道路ですから。これからつくる道路は相当やっぱり再検討する必要があると思います。すでにできた道路ですら地元関係者との話し合いをしていない。建設省だつてそういう問題について明らかにしていない。そういうことで、この道路に反対する運動が起ころのはあたりまえだと思ふんですよ。

私は、ここかなりの間、いろいろ実情を調査してみました。あの昭和橋通りの市道にのせるのが一番いい方法なのかどうか。ほかに方法はないのかどうか。そういうことも検討してみました。

私の、これは私案になるかもしれませんが、富浦から館山にくる道路、これを川名岡から稲原を通って那古に出る道路、これが新しい計画ですが、那古船形駅の前を通り、いまの海岸道路から真っすぐに那古船形駅に上って、線路に沿って富浦に入る。そうして富士ディーゼルの前からいま計画されている。これからでき



るであらう萱野に抜けるこの線をいまの計画されている一二七号線バイパス道路にかわる道路として、同じ市道ですが振りかえてやれば、その方が犠牲が少なくて合理的ではないかという一応の考えを持っています。

館山市の将来の発展とか、地元の住民の意向とかそういうようなことを考慮に入れば、いろんな方法も考えなければならぬようなことになると思います。市長は再検討する考えがないといいましたけれども、都市計画道路にしても、いま計画されている一二七号線バイパス道路にしても、相当大きな問題をかかえているわけですよ。そういう問題を解明しないで強行する考えがあるのかどうか。それをお聞きしたいと思います。

○市長（半澤良一君） 現在の計画が最良の計画だと考えておりますので、変更する意思はございません。

○一八番（渡辺軍治郎君） それではお伺いしますが、あの道路を変えないということになりますと、あの道路に関係する人たちの生活権、財産権といえますか、営業権とかいろいろあると思いますが、そういうものをどういうふうにお考えになっていますか。

○市長（半澤良一君） この道路は工事主体が建設省でございますので、建設省が基本的に補償を考える問題でございます。

ただ、市といたしましては、市民に直接関係のあることでございますので、建設省と協議をいたしましたして、建設省の足りないところはこちらで補っていく。そういう考え方で相助け合って実現したいと考えております。

○一八番（渡辺軍治郎君） 建設省と相たずさえてやっていくというのですが、こと市民の生活権に関する問題です。しかも、そ

れを市道にのせるということで起こってきている問題ですから、市長はそういうことに對して責任を持たなければいけないと思うんです。これは建設省のやる国道だから建設省にまかすと、ただ協力するという立場では、代替地の問題等建設省は考えておりませんから、代替地については市が完全な協力をするのか。あるいは学校のところを通過するので防音壁、そういうものが必要ですけれども、建設省ではそういうものは考えていません。これも市の協力がなければやれないのではないかと。

私は、せんだって国道千葉建設事務所の所長さんに会っている聞いてきました。そういう補償の問題なんかは全然考えられていないんですよ。それで、だからこそ地元民が反対の運動を起しているんです。市が建設省にまかしたから、それだから建設省にやってもらうんだということ、市が協力するという範囲は代替地とか、防音壁とかそういうような限られたものになると思うんですが、この問題だって非常にむずかしい問題だと思っております。代替地の補償が完全に行けるのかどうか。そういうことが明らかにされないまま、問題がどんどん進もうとしているから、不安に思うのはあたりまえなんです。そこをどう市長は考えているんですか。

○市長（半澤良一君） これから、計画の測量が進んで、計画が具体的に進んでいく段階でいろいろの問題が起ころうと思うんですけれども、ただいま渡辺議員の御指摘の補償の問題とか、代替地の問題等含めて建設省とこの協議をしていこう。こういうことを申し上げているわけです。

○一八番（渡辺軍治郎君） この問題、あまり長くなりますと、押



し問答のようになるんですが、一つ重要なことで市長に聞いておきたいんですが、市長は、このバイパス道路を変更しないというふうに考えて、これから進めるといふようなお立場のようですが市民にとって財産権とか、館山市の発展にとっても道路が非常に重要な問題だと思ふんです。やっぱりいま一番問題になっているのは補償の問題ですよ。建設省におまかせするという、市長はそういう考えですが、こと市民の財産権や生活権に関する問題でありますから、市の方から、建設省はそういう点についてどのようによろうとしているのか、そういうことは市民にかわってやはり建設省に、市道を上のせしたわけですから、そういう点については市長にも責任があると思うんですが、その点を建設省と話し合つて、たとえば、土地の評価はどうするのか。建物の評価はどうするのか。代替地をどうするのか。当然市がやるとすれば、そういう問題でも関係者にはつきり伝えなければ、関係者はどうしていいかわからないわけですよ。そういうことをこれから建設省と協力してやる考えがあるのかどうか。その点をひとつお聞きしておきたいと思ひます。

○市長（半澤良一君） 先ほどから何べんもお答えしておりますように、主体はあくまでも建設省でございますけれども、市民の権利に非常に影響するところが多いわけでございますので、建設省と協力をしていきたいと、そう申しているわけでございます。

○一八番（渡辺軍治郎君） 建設省と協力するというような、そういうことは最初からわかっています。協力する内容なんですよ。市民の利害関係が大きく関係しているわけです。そういう点については、たとえば、道路敷の買上げの評価はどういうふうにするのか。これは用地の問題ですから、代替地を市長は協力するといふことだと思ふんですが、代替地だつて非常に問題が出てくるんですよ。その代替地の方がかなり価額が高いというような場合に、そのまま等価交換するのか。それとも、そこに差額が出てきた場合にだれが負担するのか。代替地の問題だつて相当大きな問題が出てくる。

家屋の問題だつて、どういう評価をするのか。たとえば、三十年で耐用年数済んでるそういう家屋をどういうふうに評価するのか。現にそこに住んでるわけですから、そういうものが耐用年数が済んでるからといって、ただのような評価で、残存価額だけで評価して、新しい家を建てるとなると建設費がからんでくる。そういう問題をどういうふうに評価するのか。

協力の内容について市民が一番聞きたいと思つてゐること、その関係者がどうしてくれるんだらうというようにことにこたえるためには、建設省がどう考えてゐるのか。これは私ども聞きに行つてもあまりはつきりしたことを言わないわけですよ。そういう点では市長に責任があると思ふんです。市民の生きる権利といひますか、そういうことにかかわる問題ですから、一応建設省と話し合つて市の計画道路にのせるというようにことをやった以上はそれぐらいの内容的のことは、当然市長は建設省と話し合いをすべきではないですか。協力の内容についてお伺ひします。

○市長（半澤良一君） ただいま、渡辺議員がいろいろお話くださった、取り上げられた問題は、当然起こつてくる問題だと思ひますけれども、現在計画はそこまで、補償の問題というようにとるまでいつていないわけでございますので、そういう計画が進み



まして、そういう段階になりましたら建設省と細かい具体的な問題について話し合いをするつもりであります。

○一八番（渡辺軍治郎君） 最後に、これはお尋ねしますけれども、計画は現在されているわけです。実施の段階でそういうことは考えていくことですが、現在みんな不安に思っているんです。というのは、もう測量が済んでるわけです。一部ではそういう不安があるから測量を拒否してもやっていくということにならざるを得ないわけです。そういう問題が明らかにならなければ、測量して道路ができてしまえば、いままでの例から見れば、各戸撃破でもって買収を進めていく。安い価額で往生させられるという、そういうケースはいままであるわけです。そういう面では信頼を持ってないという面もある。そういう点がはっきりされなければ、地元の人が反対運動を起こすのは当然だと思ひんです。

実施の段階でといいますが、いま計画されている段階で起こっている問題ですから、そういうことは地元の人たちや、まだ市民にも昭和橋通りの市道というものが館山市の将来の発展にとってこういうふうに必要ながあるんだ。しかし、それが国道に変わって鴨川方面に抜ける四車線の道路ができた場合、どういふ影響が出てくるのか。いろいろ問題が出てくるわけです。

確かに、一二七号線の渋滞を解消するために新しい道路が必要だということではだれでも認めていると思う。問題は、その決め方の問題があるわけです。それと、その内容の問題が出てきますから、これは幾ら言っても、市長は建設省と協力してやるということとで、あるいは実施の段階だというふうなことを言ってますが、いま必要なことだと思ひんです。そういうことをやるのか。それ

でなかったら、反対の運動はやはりこれは不安に思っている人たちがいるのは市民でもそういうことに疑惑を持つて人たちは納得できないと思ひんです。そういうことで、私たちはこの問題については、もっともっと慎重にやる必要があるのではないかと。

都市計画道路にしても、私のところ含むあの一帯は、あるいは焼け野原なんかにならなければできない道路ですよ。それを計画したからと言って、実施の段階で家をどうする。土地をどうする。という問題が起こってきただけではしょうがないわけですよ。

計画道路をとにかくそういう地図にのせる以上は、そういう人たちと話し合いて移転する場合どうするか、そういうようなことを納得できなければ、やろうと言ってもできないことでしょう。本心にやる気があるのなら、私はそういう話し合いを進めてやるのが本心だと思ひんです。なんか線さえ引いてしまえばいいんだという、そういうことではこれは話になりません。

そういう点で、市長さんには、もう少し市民の立場に立つて慎重に考えてもらいたいということを要望しておきます。

それから、二番目の水道問題についてですが、これは深井戸と浅井戸を掘って夏の水不足に備えるということと努力していることは評価して、この水不足対策が本当に夏に間に合うようにやってもらうようにお願いしておきたいと思ひます。

時間がありませんから、一つ聞いておきますが、配管が下水路排水路の中を通っている問題についていまままでどのくらい実施されたか、聞きたいわけですが、これは時間がありませんから、私の方で言っておきますが、本管がアタッククリーンのところの中央排水路の中を通っているわけです。下をコンクリートで底ができてい



ますが、その上に本管が通って水の流れを阻害しています。

それから、その上の方の旭湯のところは一応そういう問題が  
あって解決しているようですが、こういう問題をすぐやるのかどう  
か、お聞きしたいんですが、時間がきましたので、あとの方に移  
れませんが、あとでまた。

○議長（吉田勇治郎君） 一八番議員君の質問を終わります。

次、林 豊君。

（一三番議員林 豊君登壇） （拍手）

○一三番（林 豊君） 私は、さきに通告いたしておきましたと  
おり、次の三点につきまして質問を申し上げます。

まず第一点といたしましては、教育問題なканずく学区の編成  
と学校設置の問題であります。

わが館山市は、昭和二十九年旧六カ村の合併によりまして小学  
校十三、中学校七をもつて編成をされ、今日に至っております。

しかしながら、この二十年の間、混乱と激しい教育事情の変化  
の中で、市は教育優先の一大方針に基づいて、数多くのすぐれた  
施策を推進いたしてまいりました。しかしながら、逐次実施をさ  
れてまいりました諸施策の陰に隠れて、学校教育に最も重要であ  
ると思ふべき根本的な問題を忘れ、これを置き去りにした感があ  
ります。すなわち学区の編成と学校設置の問題であらうと存じま  
す。

もちろん、小学校につきましては、この間、畑分校の豊房小へ  
の統合がただ一つ行われましたが、その他は全く旧態依然たるも  
のがあります。

当初、館山市は、中学校四、小学校九校案を計画をいたしましたし

て、これが実施に向かつて努力してきたはずであります。しかし  
ながら、いまだ小学校は十二校、中学校は七校のままであります。  
特に、中学校におきましては、なぜか人が居みきらうところの四  
という字のつく四中を二十年も前からつくりながら、人が歓迎を  
する七五三の三という字のつく三中をいまだに忘れておるような  
感じがございます。

その後、経済の伸張に伴いまして、館山市中心街を取り巻く教  
育環境は著しい激変を来し、現在の学校の配置ではとうてい均等  
なる義務教育を実施でき得る状態ではないことは衆目の認むると  
ころであります。

特に、中学校におきましては、昭和三十七年をピークといたし  
まして、生徒数は下降線をたどっており、過疎、過密の格差はま  
すます開いてまいりました。

新学制発足後すでに三十年、諸般の情勢にかんがみまして、こ  
のときこそこの問題を解決すべき絶好のチャンスではないでし  
うか。過去において何回となく三中新設問題も提起されながら、  
未解決に終っております。

私は、特にこの次に第二の問題として提起をいたします館山高  
校の跡地利用問題ともからみ合わせて、逼迫する館山市財政の一  
大救済策としても、三中建設を提案する者であります。

市長並びに教育委員会のこれに対する御意見を伺いたいと存じ  
ます。

第二点といたしましては、館山高校の今後の見通しと使用料に  
ついてでございます。この問題は昭和四十九年九月の定例会にお  
きまして、議案第六十六号で提案され、現在に至っているもので



あります。

このときは、財産の取得ということで、現在の館山高校を三億五千九百四十三万円なりで県より払い下げると提案をされ、かなりの論議がありました。当時の経済情勢の中で決議をされたものであります。その方法といたしまして、市は高井地先に新高校用地を等価交換用地として買い求めるということで承認をされたわけであります。しかしながら、交換の時期、方法、具体的な条件等契約内容についてははっきり示されなかったと記憶をいたしております。

もっとも、五十年六月市会の中で、昭和五十年二月市の取得した土地については登記済みであるとの答弁をいただいておりますので、この時点を交換の時期と考えてもよいと思いますが、その点どんなものでしょうか。お伺いをいたします。

なお、現況といたしましては、いまだ用地造成は未完成でありますし、校舎の建築もいまだほど遠いことのように考えられます。新館山高校が完成を見、学校の移転が終り、実際に市の財産として館山高校跡地を利用する時期はかなり先のことになるかと断ぜざるを得ません。

そこで、用地取得に要した三億六千万円の支出は、現在の市財政に非常に大きな負担となつてまいりました。その利子は約三千五百万円でございます。開発公社の支払い利息の三割五分にも相当する膨大なものであります。この利子は市財政を大きく圧迫することになるかと存じます。

しかしながら、県といたしましても、市よりもはるかに苦しい赤字財政の中で、この学校建設がそう簡単に進捗するはずはあり

ません。

そこで、前にも述べたとおり、すでに市の財産となつた現在の館山高校は、市が県に貸してあることになりましたので、最低買収金の利子相当額ぐらいの賃貸料は当然県よりもらい受ける権利があると考えますが、この点どんなものでしょうか。

以上の諸点を踏まえて、今後の見通しと、これに対する市の対応策をお聞きしたいと存じます。

第三点は、電話回線の統合問題であります。これは昭和四十五年三芳局の企画によりまして、館山市の一部を含めて三芳村全般にわたり拡張を行った際、加入をいたしました館山市の腰越、広瀬、江田、亀ヶ原地区の三芳局番号にかかわる問題であります。

当時は、近く二子地区に無人交換局が増設される予定であるので、この局に統合一元化するとの話がございましたが、すでに二子の九重駅前には交換局はとうにできてしまったのにもかかわらず、一向に統合は行われておりません。そのために非常なる不便をしいられております。

そこで、これらを館山局に編入するために関係機関に働きかけて、一日も早く不便を解消していただきたいと存じますが、市のお考えをお尋ねしたいと存じます。

以上、三点について御質問を申し上げます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 林議員の御質問にお答えいたします。

第一点は、小中学校の統合計画についてでございますが、学校統合の問題は、何よりも学童の成長、発展にかかわることでありまして、その教育的効果を高める点にあると思います。諸能力の



潜在的な時期にある学童の教育には、望ましい環境整備の中で、より豊かな生活体験を与えることが最も根本的な施策であります。

以上のことから、本市の学校統合に関する検討もいまままでに数回行われております。すなわち昭和四十一年館山市学校統合問題審議会、昭和四十九年現場教師の代表による教育問題研究委員会、昭和四十九年文教民生委員会、昭和四十九年定例教育委員会、昭和四十九年定例校長会等々で話し合われて今日に至っております。

今日における実情から見ましても、本市の中学校はその規模がアンバランスであります。安房地方の中学校で六学級以下は本市にのみ四校もございます。特に、昭和五十一年の見込みは神余中では二十六名、豊房中は五十七名が全校生徒数であります。

教育を平等に受けるという大前提からも、適正な規模の学校にすること、クラブ活動、生徒指導が落ちなく実施できること。市民意識を育てるためにも農漁業地域と都市地域の交流による融和と切磋琢磨の教育ができること、集団としての学習モラルが高まること、施設、整備の充実による格差の是正ができることなどが考えられます。

このことから、現在七校の中学校を四校に統合することが妥当な方策であると思えます。したがって、具体的には教育委員会と十分協議をして進めたいと思っております。

なお、小学校については、それぞれの地域の文化的支えとして幼稚園も含めて、小学校は存続させることが望ましいと考えております。

第二点 館山高校移転見通しと使用料についてでございますが、館山小学校移転の見通しについては、現在県としては明確にされ

ておりませんために、再三にわたり推進要請を繰り返して行ってきたわけでございますが、その最も基礎的な条件となる埋め立てについて本年度実施するという確約を得たわけでございます。

校舎建築は、それ以後二カ年計画で行うという県の方針でございますので、これがさらに延引されることのないよう要請していきたいと考えております。

使用料につきましては、基本的には県が移転するまで無償で利用できることになっておりますけれども、県の工事着工が延引されることにより、現館高の使用期間が延引されるとなると、その場合は県において応分の措置を講じてくれるよう要請する考えてございます。

電話回線の一元化についてでございますが、この問題は、本市に限らず各市町村に見られる事例でございます。これを一市町村一回線に改めるとなると、膨大な経費を要するために、実はかなり困難な問題であると伺っております。

したがって、現在本市域内北部地区の一部が三芳局管内に入っているものを館山地区管内に統括していく要請はきわめて困難性が高いと判断されるわけでございます。しかしながら、地域住民の多数から一元化への要請が高まりますならば、その時点で運動の展開方法等検討しなければならぬと考えております。

以上、御答弁を終わります。

〇一三番（林 豊君） ただいまの市長の答弁で、ある点においては了解をしたのでございますけれども、第一に、学校の統合問題でございますが、考え方については市長も私の考え方と同じでございますので、意見はございませんけれども、現在すでに館



山市の学校の一クラスの生徒数というものは三十三・五人でありますか、そういう平均数に比しまして、二中においては四十・七五人だと、しかし最低の神余中学校では十五人であると。小学校にもおいても同じようなことが言えます。最高の館山小では二十八・七だと、神余小においては十三・六、半分であるというふうなことでアンバランスがはなはだしい。

こういうようなことでは、私は教育効率に非常に大きな影響があるというふうに考えますので、すみやかにこれを実施する必要があるのではないかと。ただ答申だ、研究だということと終始したのではならないのであつて、一日も早くこれらに取りかかる必要性があるのではないかと。いうふうに考えますので、現在私が取り上げている問題は、特に三中の問題ではございませうけれども、時期の問題だろうと思ひます。いかに予算を集中化して教育効果を効率化するというに立脚しますれば、一早くこの問題に着手しなければならぬというふうに考えます。

それと、第二点の問題についてでございますけれども、館山高校の跡地が三中に利用ができるというようになつておりますれば、市の負担がそれだけ軽くなる。文部省あるいは防衛庁いろいろな方面からの補助金あるいは起債等もふえてまいりますし、この建設をめぐつてやりくりができるのではないかと。いうふうな考えもしますので、この点を特に私は質問を申し上げたわけでございますので、もし使用料が取れないというならば、使用料がなぜ取れないのか。私はさきにも申し上げましたとおり、使用料が取れない理由というのは、その当時における県との契約の内容によるものであるというふうに判断をされますので、差し支えがなければ、その契約の内容についてもう少し明確にしたい。

いま、市長は、もしも建設が延びるならば、これを県に折衝を

して何らかの措置を講ずるといひますけれども、私はそういうなまやさしい問題ではないと、現在市のいろいろな手数料、使用料等を上げて、市民サービスもある程度がまんをしていただきながら、こういう冗費を出しているという事は、私は見るに耐えないのでございまして、何らかの方法で、これを解決する一つの策として、私の第一の問題、第二の問題をからみ合わせて三中の問題を早急に着手すべきであるというふうに考えますので、この点、市の方の考え方をお聞かせ願ひたいと存じます。

○議長（吉田勇治郎君） 暫時休憩いたします。

午前十一時八分 休 憩

午前十一時九分 再 開

○議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

○市長（半澤良一君） 林議員の御質問にお答えいたします。

館山高校の跡の利用方法として、三中を早急に建設したらどうかという御意見でございますが、館山高校の移転につきましては先ほど答弁申し上げましたように、まだしばらく時間がかかりそうです。その間にひとつ総合的な計画の中で、その利用方法を考えたいと考えております次第でございますが、三中建設も一つの有力な案としてその際に検討をいたしたいと考えております。

それから、使用料の問題につきましては、当時の契約が取り交わされておりますので、具体的なことにつきましては企画課長の方から御説明いたします。



○企画課長（小沢正治君） 契約関係でございますが、これは当初正規の契約を交わす前の時点で、いろいろお互いの話し合いといえますか、協定関係があったわけでございますが、その結果、一応市と県との基本協定というのが交わされております。

基本協定の中で、県は土地造成後おむね三カ年で校舎を整備すると、県は現在の館高用地及び施設関係を市に譲渡して、その代金を市は四十九年度中に支払うという基本協定があるわけですが、これを受けて、契約書の中では詳しくうたいませんが、「市は自分の間、県が使用することを認めるものとする。」という表現になっておるわけでございます。

○一三番（林 豊君） ただいまの企画課長さんの御意見を伺いますと、私どもも当時経済情勢がいまとは違いますので、そういうような非常にいいまいなことで契約がなされてきたことについて、さしたる質問もなかったというふうに振り返って考えるわけでございますけれども、いま私は公社のことを詳しく聞くわけではございませんけれども、公社が非常に多額な借金をかかえておる。利子は実に一億千七百万円だということで、その三分の一に当たるところの館山高校の四億千三百二十五万円、現在におきましては残高があるわけでございますから、これを十年間に返済しても、一年間に利子を含めれば五千万以上も返済していかなければならぬ。非常に苦しい立場に置かれているというふうに私は考えるんで、何とかこれを救済するために、三中を早急にここに建ててこの問題を解決する。

あまりいいとえではございませんけれども、穴の中に入ったキツネはつかまえないんだけれども、非常にめんどろな問題であ

るので、入り口に火をつけてあぶるというふうな考え方でこれはやらなければならぬ。こういうことで私は時期の問題をいま考えているわけですので、なるべく早急に問題を考えたらどうかというふうに考えますので、再度その点につきまして。

いま、市長の答弁では、なんか三中の問題は別だというふうにおっしゃっていますけれども、この際ひとつ、それを早急に実施の段階に移していただくことが、私は市の財政の救済策ではないかというふうに考えますので、この点ひとつ、もう一度御意見を拝聴したいと思えます。

○市長（半澤良一君） 先ほど御答弁いたしましたように、館高の跡地につきましては、これは長期計画の中で、館山市の将来構想の中で十分慎重に皆さま方の御意見を承りながら、きめていかなければならない問題だというふうに考えておりますが、三中の問題は貴重な御意見として、大きな使用目的の一つの大きな柱みために考えていきたいと考えております。

○一三番（林 豊君） はっきりとした御意見は伺いできないようでございますけれども、私はこの点につきましては、ひとつ市がこの際思い切ったお考えのもとに、断固計画をすべきであるというふうに思いますので、さらにさらに慎重な御研究をお願いしたいと思えます。

それで、第三の電話の一元化でございますけれども、もちろん、これは電電公社にも御意見がございましょう。せっかく三芳の局で設置をしたところの回線につきましては、かなりの金額がかかっておりますし、田舎のことであまり使用料の少ない電話回線ではなかなか償却も困難だろうと思えますので、市長のおし



やるのとおりに御無理だというふうには考えます。

しかしながら、回を重ねて陳情をする。あるいは署名嘆願をするというふうなことをしていかなければ、いつになっても置き去りになるのではないかというふうに思われますので、もし署名嘆願あるいは請願というふうな運動をこの地区で起こした場合に、市がこれにある程度協力をし、やってくれるかということについて市の方のお考えをお聞きしたいと思います。

○市長（半澤良一君） 御趣旨に沿う方向で努力をいたします。

○一三番（林 豊君） 了解いたします。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、一三番議員君の質問を終わります。

次、六番議員鈴木正義君。

（六番議員鈴木正義君登壇） （拍手）

○六番（鈴木正義君） 私は、初めての通告質問でございますのであがるようなことはないと思いますが、先輩方を見習いながらやらしていただくと。戸惑うことがたくさんあると思いますが、なにとぞ御理解のほどを心からお願ひ申し上げます。（拍手）

それでは、通告質問三項目を出しましたので、第一点からやらしていただきます。

第一項目は、農業協同組合の育成と一次産業の振興策についてということでございます。

皆さま、ご存じのとおり、戦後三十一年になりましたが、今日のようにめざましい経済発展国とわが国ではなつたのですが、過去を振り返って見ますときに、いままでかつてなかつた敗戦といういまわしい思い出、私も戦地五力年、終戦の翌年帰ってまいりまして、まず食うものがなかつたというわけで、アメリカの放物物

資でどうやら飢えをしのいできたことは皆さまも御承知のとおりです。幸い、私は農家の生まれであつたので、三度三度の御飯だけはどうかやら事欠かさなく食うことができたということは自分でも幸せだったなというふうに思っております。

その当時のことをいまい思ひ出すと、いまはラジオでなくて、テレビでよく毎朝、一日じゅう放送しておりますけれども、その当時はテレビもなく、いまのようではなかつたので、毎朝毎朝農家の皆さま御苦労さまでしたというふうに放送しておりました。

その後、朝鮮動乱がわが国の復興の基礎となり、今日の世界一の経済国となつたと思われませんが、その反面、農家の後継者がだんだんいなくなり、現在一部落に二人ぐらいしかいない状態で、あとは終戦を境に農家を受け継ぐ人たちがだんだんと老令化しておりますのが現情ではないでしょうか。わが館山市ばかりでなく近隣市町村においてもしかりと存じます。

さて、今後どのように後継者を育成しなければいけないかというところが大きな課題ですが、そこで、後継者の育成はいかようにされるか、いろいろな問題点がありますが、農協としても積極的に取り組む心構えをしております。

市長としては自主性を考え、主体性を持ってやるような心構えがあるか。お伺いします。

それでは、第二点の方を質問いたします。圃場整備事業が着々進んでいるが、今後どのような計画があるか。お伺いします。

三月の定例会のときに、林議員さんより圃場整備終了後の農業の振興という質問がありましたので、改めてまたやらせていただきます。



県営圃場整備事業は、皆さまもご存じのとおり、東部、西部に分かれ、すでに東部は三百九十五ヘクタールのうち、すでに七五％完了しております。西部は四百三十五ヘクタールのうち、まだ三〇％しか完了しておりません。本年度はわが方、西部四十七ヘクタール着工する予定です。

さて、圃場整備事業には多額の補助をもらい一工区ごとに完成しておりますが、受益者負担も大変なものです。そこで、市の行政として、一工区ごとの指導をどのようにすればよいか。お尋ねいたします。

三点、先ほど渡辺議員さんよりバイパス道路についての質問がありました。私も同じ一二七号バイパス建設について質問させていただきます。

かねがね、うわさには聞いておりましたが、昨年議員に出させていただき、今回バイパス建設促進経過についても読みました。この促進経過の内容は皆さま御承知のとおりですが省略させていただきます。多年にわたり促進に御苦労なされた方々の運動がここにバイパス路線の決定を見たことについて、感謝の意をあらわす一人です。

ご存じのとおり、私どもの地先を通る予定で、すでに測量も終り圃場整備区域について反対はいたしませんと、皆さまの同意を得ております。しかしながら、一部の人たちが猛反対し、署名捺印を求めながら運動しているのは皆さま御承知のとおりです。反対なさる方々の気持はよくわかります。

そこで、市当局として、きめ細かく反対なされている方たちと話し合いをする必要を感じます。

さて、市長にお伺いいたしますが、バイパス促進について館山市にどのようなメリットがあるか、お尋ねいたします。

私の通告質問を終わります。（拍手）

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 鈴木正義議員の御質問にお答えいたします。

第一点は、協同組合の育成と一次産業の振興策ということでございますが、おもに農業協同組合についての御質問のように感じましたので、それにお答えしたいと思います。

農業協同組合につきましては、これは水産業協同組合も同じことでございますけれども、それぞれ農業協同組合法による法人格を持った自主的な業種団体でございますので、農業、漁業に従事する人たちの権利や利益を保全する性格を持ち、さらには業界の振興、発展を施行する事業を遂行しております。その運営はあくまで独立採算制を尊重する公共的性格を帯びながら、自主的な企業体であるわけでございます。

それだけに、法的に国や県の強い指導、監督があるわけでございますが、市といたしましても、直接の権限はありませんけれども、特に公共的な振興事業に対しては、財政の許す範囲で極力助成措置を講じ、業界の振興に協力してまいりたいと存じております。

第二点の圃場整備事業が着々進んでいるが、今後どのような計画があるかという御質問でございますが、県営圃場整備事業は、安房中央土地改良区のうち、館野地区四中付近から東を安房中央東部地区、四中から西を安房中央西部地区に分割され、昭和四十七年度に東部地区四百三十五ヘクタール、昭和四十九年度に西部



地区三百三十九ヘクタール、合わせて八百二十八ヘクタールの圃場整備事業計画が決定しております。このうち、昭和五十年年度まで二百ヘクタールの面工事が完了しており、残る六百二十八ヘクタールについては逐次面工事が施行される予定であります。国や県の予算のワタに制約され、年次着工のずれ込みがありましても、計画が決定されておりますので、できる限り面工事の早期実現を土地改良区の関係者と協力して努力してまいりたいと考えております。

遅い、早いの違いはありません。抜本的な農業近代化への道が開けたわけでございますので、関係農業者のために同様に耐えないところでございます。

しかしながら、このような基盤整備は、言わば骨格事業でありますので、これに対応する営農能率を高める諸施策が要請されることは当然でございます。

すでに、東部地区では、昭和五十年年度から近代化計画が策定され、一部事業が施行されております。その内容は、昨年十二月定例議会で予算補正の際に御説明申し上げましたとおり、一億六千万円事業費でライスセンター、農耕トラクター、コンバイン、バキュームカー等が完備される予定であります。なお、圃場整備未着工部分も合わせてあと追い事業としての近代化計画は多分にずれておりますので、当然計画の手直しが望まれるところでございます。本年度は関係農家との話し合いを重ねて、よりよいきめの細かい近代化計画の変更を考慮しております。

次に、西部地区でございますが、昨年度まで平久里川右岸を中心として四十三ヘクタールの面工事が完了しており、本年度も四

十五ヘクタール程度施行されるように聞いております。特に重要なことは関係農業者の間で、東部地区のような近代化計画策定の要望が強いということも聞いております。

市としまして、面工事の終了地区及びこれらの施行地区ともども協議を重ねて、地元の最も有利な設備投資を掘り起こして近代化への脱皮を実現いたしてまいりたいと存じております。

特に、西部地区はかつてのソラマメの主産地として京浜市場をわかせた地帯でございますだけに、これにかわる主産地形成を十分地元を中心に農協、普及所ともども協議しながら近代化計画を策定してまいりたいと思っております。昭和五十一年度は市としてもこれを重点的にこれを実施してまいりたいと考えているわけでございます。

第三点の国道一二七号バイパス建設についてでございますが、先ほど御答弁申し上げましたように、県内主要道路の一つでございます。国道一二七号線が全体的に渋滞しており、その解消を目的として木更津から館山市までの間の国道改築計画の一部として、昨年館山バイパスの計画が建設省より発表されましたけれども、これが早期実現には関係者のご理解と御協力がなければ、とうていでき得ないことでございますので、地域住民の方々の御協力を切にお願いし、国の計画に協力してまいりたいと考えているわけでございます。

これが完成いたしますれば、館山市を中心とした観光、産業の振興がいま以上に図られ、充実を期することができるといふふうに考えているわけでございます。

以上、御答弁を終わります。



○六番（鈴木正義君） どうも素人なものですから、戸惑いがちで申しわけありませんでした。

最初の協同組合の育成と一次産業の振興策についてというわけなんです、私も上り調子であつたもので一枚落してしまつたので、どうも申しわけございません。（笑聲）

市長さんのおっしゃるのはまことに結構だと存じます。結構だと存じますけれども、いわゆる魅力ある農家づくりというのがわれわれ農家のいき方であつて、農機具等の過剰設備の投資をどうするかというような問題、いろいろな面があるわけなんですけれども、このやつを一枚落してしまつて、どうも申しわけありませんけれども、続けて考え方を再質問させていただきます。

○市長（半澤良一君） 一次産業としての農業の振興についてという御質問でございますけれども、四十九年度で約四十七億の生産高を農業関係で上げてゐるわけでございます。農業は漁業とともに本市の基幹産業でございますことは御承知のとおりでございます。

特に、本市は地形上、水資源の利用制約等もありまして、しかも経営規模も一戸当たり六十二アールと小さく、県平均百アールに比しますと、四十アールも少ないというそういう条件をかかえてゐるわけでございます。県並みの生産を上げるためにも、本市の農業は恵まれた気象条件を生かした換金性の高い園芸や酪農指向型にならざるを得ないと思つてゐるわけでございます。

このような条件下で、農業振興の道を配慮しながら、昭和四十八年に館山市農業振興地域整備計画を策定いたしましたわけでございます。

特に、この計画は、年収三百万円以上の企業性の高い中核農家の確立が本市農業振興の基本構想でもございます。この中核農家確立のための手段として、思い切つた近代化への脱皮を推進することに尽きるところでございすけれども、これには当然多額の設備投資が必要となりますので、限りある農家の資力ではとうてい不可能でございますから、国や県の投資を仰ぎ近代化への道を進めていくものでございます。

たとえば、米プラス園芸、または米プラス酪農のごとき営農類型を各地域別に目標を掲げ、その中で、現に進歩しているもの一つに県営圃場整備事業があるわけでございます。

このような計画、目標達成のための事業の振興は、当然農家各位の意欲と理解がなければ実現いたしませんので、市といつしても、この面の努力を結集して、事業の掘り起こしや施行を進めてまいりたい。このように考へてゐるわけでございます。

○六番（鈴木正義君） ただいま、市長さんが非常によくおっしゃつてくださり、よくわかりましたんですけれども、これから着々と西部地域の圃場整備を行つていくわけなんです、それに伴うところの畜産公害等考へた場合において、いま市長さんがおっしゃられたように、畜産にも力を入れるわけなんですけれども、公害問題をどういうふうに考へておられるのか。その点もひとつお聞かせ願ひたいと存じます。

○農水産課長（岩崎一郎君） 私の方から御答弁申し上げたいと思ひます。

畜産公害に関しましては、今年の三月ですか、お答え申し上げましたとおり、確かに公害という形のは出ておるわけござ



いますけれども、これは公害ということ自体考え方が少しそれておるといわれるの見解がございます。

と申しますのは、当然これは農業者であるならば、これを再利  
用いたしまして、土地に還元し、地方の有機質の確保ということ  
には重要な要素でございますので、これが不可欠のものを公害と  
いう形の名で見捨てられてしまふ。まことに惜しいというわけ  
でございます。

したがいまして、このことにつきましては、五月以降いろんな  
関係者と相談して、農協等と相談しているわけでございます。過  
日、畜産奨励委員会にこの内容、方策こういったことにつきまし  
ての市長から諮問があったわけでございます。現在これを前向き  
の姿勢で検討しようということで具体的な面まで進めておりませ  
んが、確かに生産するのは酪農家でございます。したがって、こ  
れを利用するのは酪農家以外の蔬菜、園芸、米こういった方が利  
用するわけでございます。どこまでが、利用する形をもってくる  
のがどこまでの分野でやるのか。こういったワタ組みが必要にな  
ってくるわけでございます。それと、利用しやすいような形まで  
もっていくのかどうか。あるいはその間に第三者的な機関が必要  
なのかどうか。第三者的な機関においてそれらの流通機構をどう  
対策を立てていくのか。こういった二つあるいは三つの点が検討  
されたわけでございます。

こういったことにつきまして、さらに再度お集まり願ひまして  
検討することでございますので、農協、その他の関係者も  
これにつきましては非常に大きな関心を持っております。

去る九日ですか、後継者の方々二十四、五名の方々と座談会を

やったわけでございますけれども、その際にも、その内容につ  
きましては強く要望が出ておったということで、したがいまし  
て、市といたしましても、畜産奨励委員会に諮問したわけでござい  
ますが、やはりこれらの問題を相互に耕種農家、酪農家相互に交換  
を実施する。あるいは公害のような形にもっていかないで、酪農  
自体の環境を保全して住みよい無公害の地帯にしようという制度  
がでございます。

この制度にのっかりますと、ある程度の国、県の助成があるわ  
けでございます。したがいまして、そのような助成の中に組み入  
れまして、できるだけ自己負担の肩がわりをしてもらうというこ  
とにしろるかと思ひます。

ただ、この問題につきましては、前から申し上げましたように  
施設そのものが乳牛、乳代、乳量の増大、所得の増大こういった  
ものに直接結びつかないということでございますけれども、確  
かにこの問題はその利用が活発化されるような環境がこない限り、  
やはりうちやられてしまふ。害というふうな形にならざるを得  
ないんではないか。私も担当課として非常に惜しいのでござい  
ますが、そういうようなものをどうにかして整備して活用してま  
いりたい。このような考えで現在いるわけでございます。

○六番（鈴木正義君）　ただいま、私の質問が短かったものでは  
ら申しわけございません。

いわゆる、公害と利用ということを含めながら、これを一つや  
るのが当然なんで、しからば公害そのものをどういうふうにして  
市と農協と一体となりながらやっていったらよからうかというこ  
とを私は聞きたいわけで、これは課長さんからの答弁でよくわか



りました。

それから、いわゆる後継者難ですから、これから市長さんが生産性を高めるようなことに対して、どのようにしてこれを行っていくかということをつけ加えてお願いいたします。

○市長（半澤良一君） 後継者の問題でございしますが、結局は農業自体が魅力ある産業になるということが一番根本の問題だろうと思います。

そういう意味で、先ほど申し上げましたように、昭和四十八年に館山市農業振興地域整備計画というものをつくったわけでございます。いろんな方策を講じながら、年収三百万円以上の企業性の高い、そういう農家経営というものを確立をしたい。そういうふうに考えてるわけです。

そのために、当然多額の設備投資が必要でございしますので、国や県の投資を仰ぎながら、近代化を進めていきたい。その方策とすれば、米に園芸あるいは米に酪農、そういったような営農形態を進めていきたい。そんなふうに考えているわけでございます。

○六番（鈴木正義君） それでは、第二点の圃場整備事業でございしますが、近代化きめ細かく進めていくということでございますので、非常に結構だと存じますが、近代化はきめ細かくということとはどのようなことを指すか。一つお願いいたします。

○農水産課長（岩崎一郎君） 私ども、計画の策定に際しましては部落の意向あるいは関係者の何が一番必要であるかというようになことを重点的に取り上げていくわけでございます。

そのための希望を取りまとめますと、国の制度ではこういうものが該当していく。これは私らにはわかりませんが、現在

のところ、東部の地区にありましてはライスセンター、あるいは大型圃場を耕耘いたしますトラクター、あるいは稲刈りをやりますコンバインこういった点に重点を置いてやりたいということになります。

ただし、これから策定いたします場合は、あるいはどういうかっこうになりますか、部落の方々とひざ突き合わせた結果を待たないといけない。畜産あるいは園地こういったような多頭化への指向こういったものも考えられますし、特に私ども腹の中にありますのは適地適作ということが実は一番あるわけですが、それらの環境状態、こういったものがやはりびつたり合いませんとなかなかできないわけで、そういったことにつきまして、われわれの願いやら、あるいは普及所等のいろいろな技術的の面等協議いたしましたして、部落と相談してまいりたい。その上で、計画というものを組み込んでいきたい。そういうふうに考えているわけでございます。

○六番（鈴木正義君） 第二点のことは、よくわかりました。

それでは、市長さんにお伺いします。一二七号のバイパス建設について、この一二七号バイパスについてはいろいろな、先ほども私も申し上げましたように、猛反対もございすけれども、まず第一の、市としてどういうお考えがあるか。まず、ベトナムの考えがあるのかないのか。そういうことをまず第一点にお尋ねいたします。

○市長（半澤良一君） この重要性につきましては、いまさら私が申し上げるまでもないわけでございまして、すでに四十三三年頃からこのバイパスを建設してもらうように国に働きかけ、国もまた



調査の結果、その必要性を認めて昨年館山バイパス計画ができたわけでございます。そういう意味で早急に実現いたしたい。

そのためには、関係者の皆さま方の御理解と御協力を得ながらそのためにいろいろ利害関係が生じますので、そういう問題をひざ突き合わせて、そうして解決していきながら、住民の方々の協力をお願いいたしていきたい。そうして実現を期していきたい。そう考えているわけでございます。

特に、御質問のような、館山をベッドタウン化するというような考え方ではございませんで、当面館山の観光の振興あるいは館山における交通状態の改善によりまして、産業の振興が図られるものだ。それを目標にいたしているわけでございます。

○六番（鈴木正義君） ただいまの説明よくわかりましたんですが本間市長当時から十万都市にするんだ。観光ひとすじにやるんだと言っても、いまだかつて、むしろ減るような館山市の状態なんですけれども、観光、産業と市長さんおっしゃってあって、ベッドタウンの考えがないということであるとすれば、何のためかこの一二七号線をこしらえて、ただこのままの観光、産業と言って、果してこれが成り立つのかというような考えもする。

それから、どうしても観光、産業の面で、当然力を入れなくちゃいけないんですけども、まず第一には、人をふやすことが大事ではないかと私は考えるわけで、しかれば、観光観光と歌を歌うだけの観光では、夏だけは確かに来ます。夏が過ぎれば閑古鳥を放したようになってしまう。（笑声）こんなことで何の観光が得られるんだということを私は考えておる。四季においての観光の面は皆さん真剣になって取り組んでいると思いますけれども、

私の考えでは、公害のない企業を誘致したらどうか。でき得るならば市のためになる、ただ観光と言ってみたところで、夏だけの観光では何の取り柄もない。

しからは、富浦とか、岩井だとかああいうような非常に恵まれたところの海岸線であるならば、これはまた別でしょうけれどもわが鏡ヶ浦あたりは見たってひとつもよい海ではないと私は思われますが、（笑声）その点よくお考え合わせながらやってもらいたい。

いわゆる、市長さんの考えでは、十万都市にするような大きな構想をお持ちになっているかいなか。お尋ねいたします。

○市長（半澤良一君） 十万都市を目標とするかしないかという御質問でございますが、これは都市の発展ということがどういう形であるべきかということはいろいろ問題もあるうかと思えます。やはり、都市というのは、そこで生活の機能も望まれますし、生産の機能も持っていると思いますが、生活と生産の両機能がマッチしたところ、そういう都市のあり方を私は考えているわけでございます。人口がふえることが必ずしも都市の発展につながるとは必ずしも思っていない。人口の多いことが必ずしもいいことではない。それに伴ういろいろな弊害も出てくるわけでございます。少なければ少ないなりに、そういうあり方を考えていく。そんなふうに考えております。必ずしも十万都市には、私は人口にはこだわらないつもりでおります。

それから、そういう意味で、ベッドタウン化することとは必ずしも市の発展のために、館山市が住みよい町になるためにいかどうか問題だろうと思えます。人口はふえなくても、流入人



口があれば、それがやはり人口がふえたと同じような効果があるんじゃないか。そんなふうに考えるわけでございます。

パイパスが完成いたしましたので、交通の便がよくなって、自動車でどんどん来られるということになれば、人もよけい入ってくるそうすれば、人口増加と同じような経済的效果が生ずるのではないかというふうに考えているわけでございます。

答弁、果して御趣旨に沿うような答弁できたかどうかわかりませんが、一応御答弁いたします。

○六番（鈴木正義君） 私の質問はこれで終わります。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、六番議員君の質問を終わります。

○午前の会議はこれにて休憩とし、午後一時再開いたします。

午前十一時五十四分 休 憩

午後 一時 一分 再 開

○議長（吉田勇治郎君） 午後の出席議員数二十八名、休憩前に引き続き会議を開きます。

一六番議員安西益男君。

（一六番議員安西益男君答壇）

○一六番（安西益男君） 私は、三点について当局のお考えをお聞かせいただきます。

まず最初、北条小学校の教育施設の環境整備、改善ということについてでございますが、北条小学校は四十五年九月に一応の完成を見、すでに五年半を経過いたしております。しかし、現在に至っていまだ不完全な状態とは言えない実情にあります。このことは関係当局者は十分承知のことと思います。

当時、設計に当たっては名古屋大学建築学部が担当し、施行さ

れたわけでありますが、従来の方式と変わった建築内容であり、当局としては新しい教育効果をねらった目的観に立ってのことだったと理解しておりますが、結果的には、あまりにも教育優先に重点が置かれ、建築の条件があつたという教育上必要な環境の施設に配慮が欠けておつたことがいろいろ問題になっておると思うのでございます。

もちろん、当時は新しい試みとして専門的なグループに設計をまかせたからとの安心感もあつたと思いますが、しかし、すでに五年半を経過した現在、欠陥箇所の根本的改善は依然として放置されたままであります。具体的経過もなされておりません。

将来の時代をにらみ子供の教育はきわめて重要視されなければなりません。細心の注意と最大の努力が大人の立場としての責任であり、なかならずその任に当たる関係当事者の責任であると言わなければなりません。

これまでも、若干の修理は何べんかされておりますが、雨漏り箇所は依然として解決しておらず、低学年の教室はガラス戸一枚を隔てて外部になっておるため、雨の日には各教室とも水びたしの状態でございます。さらには、雨天には教室が暗く、現場の先生方はほとほと困ると訴えております。父兄の方々の心配も当然でありましょう。

また、教室の照明は、当然基準の明るさが必要であることも十分承知されておることと思いますが、各教室には配線の設備すらしてありません。

北条小の問題につきましましては、のちほどまた再質問で当局のお考えを具体的にお伺いしたいと思います。



質問の第二は、市長は市民の要望を聞く会を再開し、市民の声をより市政に反映すべきと思うかどうかということです。

従来、市長と市民との密着した話し合いが地域ごとに行われておりましたが、半澤市政においては中止されておりますが、いろいろな考え方もあり、理由もあろうかと思いますが、身近に市民との接触は市民の側から見た場合、親近感と同時に信頼を深めていくのではないかと。このように信ずる者でございます。一方通行的立場であってはならないし、市民の要望が必ずしも財政に直結する問題ばかりではないと思います。また一面、市の現状を理解してもらおうという点からも必要であろうかと思いますが、この点のように今後なされていくお考えでございますか。お聞かせを願いたいと思います。

質問の第三点としましては、市役所玄関に市民相談の案内板が掲示されておりましたが、現在ははずされたままになっておりますかどうか。

市役所には毎日多くの市民の方々が出入りしております。以前には玄関に入った正面に市民相談の案内板があり、市民のための市役所というイメージが温かい感覚で受け取られておりました。安心して市民が相談に来られたというのが実情でございます。しばらく前からこの案内板が掲示されておらないが、何か理由があったか。そのことについてお聞かせいただきたいと思います。

市民の中には、それぞれの立場でいろいろの問題をかかえておる人が相当おるわけでございます。問題をかかえている人ほど相談に来にくいものでございます。どのようなことも市民が安心して相談に来られるような体制が必要でございます。こうした観点

から案内板はぜひ掲示すべきと思いますが、いかがなものでございましょうか。

以上の点につきまして、当局の誠意ある御回答をよろしくお願いたします。(拍手)

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 安西議員さんの御質問にお答えいたします。

第一点は、北条小学校の教育施設の環境整備、改善ということでございますが、北条小学校の雨漏りにつきましては、学校からの報告により調査、検討を進めておりますが、原因のはっきりつかめた部分につきましては現在補修中でございます。

教育照明につきましては、教室の照明につきましては児童の父兄からの要望もございしますので、でき得れば来年度予算から工事の施行をしたいと考えております。

市長は、市民の要望を聞く会を再開し、市民の声を市政に反映すべきと思うかどうかという御意見、質問でございますが、まことにこもともでございます。市民の要望を聞くということは大切でございますし、私は積極的に市民の声を聞くことを基本姿勢としておるわけでございます。

ただ、その方法や手段等についていろいろのあり方が考えられるわけでございます。たとえば、現在各地域からそれぞれ市民の代表である議会の皆さま方がおられるわけでございますので、市民の各人が積極的に身近な議員さん方と話し合い、あるいは要請を訴え、議員さんを通じて市民の声を聞くことも、そういうあり方も一つの方法だろうと考えているわけでございます。

また、各地域には町内会等の自主的組織がございます。これが



市政の面で住民の声を反映させていける方途はいろいろあるはす  
でございます。

一方、最近における各都市の間で行われております市民世論調  
査とか、市民意識調査とかいったアンケート方式の中から、当面  
市民が最も多く何を望んでいるかといった調査方法もあるわけで  
ございます。しかし、これらはいずれも一長一短あるわけで、ど  
の方法によりまして、一つの方式で万全であるとは考えられな  
いのでございます。これからの市政に市民の声を反映させるため  
の方法を十分検討をしてまいりたいと考えております。

第三点は、市民相談室の案内板の件でございますが、御承知の  
とおり、市民相談室は昭和三十九年四月事務改善の一つとして、  
市民のいろいろな御相談事にこたえる場所として設置されました  
以来、大体月平均六十件から七十件ぐらいの御利用がございまし  
て、大変好評をいただいているわけでございますが、御指摘の案  
内板は、市民相談室という表示のほかに、相談事については直接  
おいでになられなくても電話あるいは郵便等でも気軽に御利用く  
ださいといった看板を模造紙とベニヤ板で表示してあったわけで  
ございますが、これが大変見苦しい状態によかれてしまったため  
に取りはずしをいたしましたわけでございます。

もちろん、住民サイドに立った行政が基本であることは当然で  
ありますので、早速御趣旨に沿うよう取りつけをいたしたいと考  
えておりまして、現在準備中でございますので御了承をいただき  
たいと思います。

以上、答弁を終わります。

○一六番（安西益男君）　ただいまの北条小学校の件につきまして

は検討されておるということでございますが、先ほども申し上げ  
ましたようにすでに五年半、しばしば修理はなされておりますが、  
抜本的な改善ということがはっきりと計画されておりませんし、  
いま来年度というふうなことでございますが、これは大変な一つ  
の大きな問題として十分至急に検討願いたい。このように存ずる  
わけでございます。

私、数回学校の実情というものを私なりに調査させていただい  
たわけでございますが、一年生の教室これは外部との接触ガラス  
戸一枚でございます。ですから、雨降り等は当然各教室とも全部  
雨が吹き寄せるわけでございます。したがって、そこを出入りす  
る生徒は休憩時間、さらには便所等は一所しかないわけですから、  
雨降りのときなどは水びたしというような実際の現状でございま  
す。

そういったことが、いま検討すると言っても、なかなか一朝一  
夕にはいけません。しかしながら、これは解決していかなければな  
らない大きな問題でございます。そういった点で、何回かの若干  
の修理はされておりますけれども、そういった本当にすぐにも直  
さなければいけないという状況においても、計画がさっぱりされ  
ていません。

このことにつきましては、教育長は現場の教育経験もあります  
ので、そのことには大変御苦労されたと思います。しかしながら  
御苦労のままでいままお放任というのと、大変語弊がありますが、  
言わばそのままになっておるといことは、これはひとついまま  
でも十分検討されたという証拠が現実としてはされてない。ここ  
に私は問題があるかと思えます。



そういった点で、また設計について問題がなかったかどうか。

これは先ほど申し上げましたように、名古屋大学の建築学部の設計によるということでございますが、実際にその後でできた館山小、さらには豊房小あたりは非常に明るさもありますし、そういった心配も全くないというような状況でございます。そのようにも聞いております。

そういった点で、やはりいま非常に問題になっております雨降りの際の雨漏り、そうして照明と言えは配線すらもない。こういうことは学校の教育基準からして当然取りつけないければならない。国家のレベルにおきましても保健体育審議会等の答申によりますと、一教室に四十ワットの蛍光灯八灯つけるということが設置基準というふうに聞いております。

そういった面からするならば、配線すらもない。計画もなされてない。こういうことでは非常に問題じゃなからうかというふうに痛切に感ずるわけでございます。そういった点のお考えをひとつは、つきりとお示しいただきたい。

それと、明りの問題でございますと同時に、教室ばかりではないんです。ワークラウンジというんですか、廊下の遊び場みたいあそこは雨降り等は先生もだれが向こうから来るかわからないという苦情、実際にそういう話をされております。ましてや、教育の環境づくりとしては通風も必要でありましょうし、換気さらには防音、照明そういった環境づくりにはやはり大きく当事者としては計画を進めていかなければならぬのではないかと感じておりますが、そのような点で現在どんなふうにお考えでおりますか。その点、お聞かせいただきたいと思います。

○教育長（安田豊作君）　ただいま、雨漏りの問題については市長からお答えしたように検討中で、直しております。これはもう完全になくしようという考え方でございます。

それから、教室の照明については、配線は現在黒板のところに二灯ついてるわけですから、教室まで配線はしていることは事実でございます。現在ついていきますから。

それから、教室の各所に、安西議員さんがおっしゃるように八カ所ですから、あと残り六カ所の配線はしてありませんけれども配管はしてあります。これはできれば、市長からお答えしたように来年度の予算で考えてみたい。こういうことでございます。

それから、設計ミス、その他の問題について根本的に考える考え方はないかということでございますけれども、学校を建てるということについては、やはり基本的に考えなければいけない問題でございます。

その一つは、やはり予算ということでございます。予算は文部省が広さの基準を出すし、それからそれにかかる単価の基準を出します。それによって計算していくわけでございますけれども、大体それを上回っているというのが超過負担、その他で問題になりますように多くの例でございます。しかし、北条小学校の場合は、私の記憶では平米でなくて坪で失礼でございますけれども坪十萬五千円という記憶でございます。これは大体文部省基準の単価でいってゐるわけでございます。

それから、もう一つの基準が広さでございますけれども、これは学校数によってきめられておりますけれども、学級数によってきめられた広さで大体あの学校はできていると、一〇％ぐらいオ



1パーしているかもしれませんが、大体それに合っておりす。

そうしますと、次が教育の場として好ましいかどうかというところが最後の目標になるわけでございますけれども、きめられた単価と、きめられた面積で最も効果のあるスペースをどうしてつくるかというところに設計者の一番苦心するところでございます。その結果がワークラウンジが生まれ、ああいうものが生まれ現在の形になっております。それが具体的に一年生に廊下が風の吹き回すことになってるんじゃないかということでございます。

廊下をつくると、お考えになりますように、二割が廊下になります。教室というのは、学校建築の建築家が一番悩んでいるところは、学校全体の広さの、そういう廊下のような、あるいは倉庫のような不要な部分、子供が勉強するに使わないスペースは一割以内に抑えたいというのが大体のねらいでございます。そういう一つの理想を追ったというのが北条小学校の建築の一つのモデルになったような考え方であると思います。

○一六番（安西益男君） 教育長さんの御説明は大体わかるわけでございますが、単価、あるいはですね、いろいろな点もあるわけでございますが、単価を当時は三億五千万というふうに四十三年度は予算化されておったと思います。校舎としては二億八千万か九千万と記憶しているわけでございますが、そこでですね、予算というそういった面から最小限、特に前財政課長はそういった点では私案があったということも、それがいいか、悪いかということになりますと、いろんな見方もあるわけでございますが、実際に完全なものをつくるというたてで予算を編成しなければなら

ない。ところが、いま言った単価あるいはそういった予算ということになりましたと、中途半端なそういったものができ上ってしまった。実際にそういう問題箇所があるわけですから、それでいいとするならば予算編成時に問題があった。そういうふうに言えるわけです。

ですから、また別な考え方があるとするならば、不自由しているのは学童、生徒、先生です。そういった予算あるいは当局の方針を重点に置いて、現場重点主義が薄らいているとすれば、これは問題が大変あとに残るわけでございますが、その後にできた館山小あたりは完璧ではないが、私はそういうふうに思う。北条小の本館を見た場合にしても、下の方は非常に暗い。便所なんか真っ暗です。ふだんでも真っ暗です。御天気の場合でも。ましてや雨の日なんか大変な暗さというのは、全然あそこに照明はないわけですから、そういった点で先ほど申し上げましたように、教育長さんいろいろな点で確かに現場におられて苦労されたということとは、私は十分わかるわけです。その後の学校長もその点指摘しておるわけですから、特に教育長の立場で、まずあそこの欠陥箇所を早く、毎年でも予算要求するという気持ちで取り組んでいただきたい。そういうふうに強く要望しておきたいと思います。

それから、あの方式がよかったかどうか。この計画がということとは、今後も逐次学校建築されていかなければなりませんから、そういった点では、あそこを大いに参考として今後どのようにあいつたシステムを考えていかれるのか。あいつた方式を取り入れていくのかどうかという点のお考えがあまりになったら、それもお聞かせいただきたい。



それから、市長さんにお伺いしたいわけですが、ご存じのように、市長は最高の学府を出られまして、館山市における最高の文化人というふうに私は思っております。ましてや、教育に非常に熱心である。またそうでなければならぬ。そのように思うわけでございますが、これは前任者の、この学校建築に当たってはそれたというようなこともありましようけれども、しかし、その後の学校の実情、そういった雨漏りによって、また学校が暗くて困るといった実情というものを市長さんは現状を十分お知りと思えますがそういった点の御調査をなされましたか。その点、ひとつお聞かせいただきたいし、そういった点の教育に対する情熱、そういったものを今後の取り組み方についてのお考えもお聞かせいただきたい。

それからもう一点は、予算という教育長おっしゃってあって、これも当然でございます。そういった点からするならば、もう五年間にわたってそういったことが繰り返されておるわけでございますから、そういった子供の指導の、また先生の、また父兄のそういった心配を早く解決しようというそういった情熱があっても当然でございます。

予算ということであるならば、前回問題にもなりました市民センターの冷房装置の案等と比較したならば、私はもっともっと優先してそういった部門を早く解決しなければならなかったのではないかと。市民センターの冷房とするならば、年間の同じ人が何人の人があそこを利用するか。そういった面からするならば、そういった価値的な判断という点においては、あるいは予算の面だというならば、そういった教育優先というその実態に即したそういう

った面の方がもっともっと痛切な、痛感してこういう教育の予算の編成に当たらなければならぬ。こういうふうに思うわけでございます。

繰り返して、市民センター本当に決定したというものの、そういったやはり緊急度、必要度そういった面から、ひとつこういった時点になお一層今後の編成のあり方については、予算という面については十分こういった点のお考え等もお聞かせいただきたいわけでございますが、またさらには、新しく今回助役が任命されて大変結構なことだと思えますが、大変財政にはあかるいということでございますが、そういった点のこれからやはり完全なものをつくるといった、そういった点で取り組んでいただきたいということを合わせて、この点は要望しておきますけれども、先ほどのひとつお答えを。説明していただきたい。

○教育長（安田豊作君） いまのような、北条のような校舎を今後も続けて建てるのかという、こういう考えを聞かせるということでございますが、北条のあとにできたのが豊房でございます。これはいま安西議員さんが挙げたような欠点を補って、明るく非常にきれいにできた校舎でございます。

その後、つくっている校舎は、考え方が防音校舎という形でございますから、防音を主とした校舎でございますので、いま言ったような機能的なことは第二に考えられておりますが、教育現場をつくっていく考え方としては、両方の考え方をマッチしていかなければいけない問題だ。こういうふうに考えております。

○市長（半澤良一君） 北条小学校の実情を知っているか。あるいは調査させたかということでございますが、私も断片的に父兄の



方から一、二そういう話を伺ったことがございますけれども、そんなに深刻な事態になっているとは知りませんでしたので、実は安西議員さんの御指摘を受けるまで存じませんでしたので、今後よく検討いたしましていきたいと考えております。

なお、御指摘のように、せっかくの施設でございますので、やはりこれは有効に利用しなければ、最もその機能を十分に發揮させなければいけないわけでございますので、それが施設を生かす道だと考えますので、十分補修をいたしまして、欠点があればそれを直して、せっかくの施設の有効利用を図りたいと考えております。

○一六番（安西益男君） 実情はあまり詳しくお知りにならなかったようですが、そこで、市民との接触の場をつくってほしい。そういう面からぜひその点はよろしく願いたいと思うわけでございます。

実際、暗いということは能率も上りませんし、また心理的な影響も非常に大きいわけです。気持がいらいらしくなると、そういうような現場の先生という、あとでいろいろ問題になるかと思いますが、事実そういうことを訴えておるわけです。現場の実情を積極的にひとつ取り組んでいただきたい。これはひとつ来年度は大幅にこういった問題を、特にいま言った個所それにつきましては本気にひとつ取り組んでいただきたい。

先ほども、教育長さん、市長さんからも来年度に予算化ということでございますので、遅ればせながら本気に児童の、本来に将来のために現場の先生の要望、PTAの方々の大きな要望等もかなえていただきたい。この点はひとつよろしく願いたいと

思います。

二点目としまして、市民の要望を聞く会、いまでも市長さんお話にあったように、そういったやはりいろいろな市長さんがじかに聞く。そういった機会があれば、そういったPTAの方たちの本当に切実なそういった要望等もなされておると思います。さらにまた地域ごとには知らない部門のいろいろな要望もあるわけでございますので、単にそういったいろいろな議員が各地域からおるということもありまうけれども、なかなか個人的な、また地域のそういった気のつかないような要望等もじかに、直接市長との交流を図った場で行うことが最も信頼度を深める。そういった点から私は必要じゃないか。

なおまた、先ほど申し上げましたように、市の実情大変なことだと思えます。そういった市の実情というものを市民の方々にも、いま市はこういう実情なんだということを本当に赤裸々にそういった事情を理解させる。そのために安心感、信頼度、市民の立場からするならば育ってくると思えますので、どうか、そういった場をつくっていただきたい。そのように強く要望したいと思いますが、その計画についてはどんなものでしょうか。

○市長（半澤良一君） 安西議員さんの御要望、御意見まことにこともっともなことでございますが、先ほど申し上げましたように、ただ、従来やっておりましたああいう市民の要望を聞く会というような形が一番有効な方法であるかどうか、いろいろ従来の話を聞きますと、疑問もあるように感じますので、なお十分検討させていただきますと考えております。

○一六番（安西益男君） いろいろな考え方もありまうけれども



も、やはりじかに市長さん密着した市民からの声、これが私は非常に重要視されていかなければならないと思います。

大変、前市長のお話をして申しわけないわけですが、おそらく半澤市長にしても同じ、あるいはそれ以上に熱心だと思います。けれども、本間前市長は寝ながらいろいろと市民のことを考えているんことを、施策を練ったということを直接ではありませんが、けれども、非常にそういった点では考えておられたということでございます。

もちろん、現市長はそれ以上の情熱をいろいろなお考えなさっているというふうに確信しておるわけでございます。そういった点で、どうか具体的な市民との密着した、あるいは接触をする。そういった方法をお考えいただきたい。そのように強く要望いたすわけでございます。

最後に一点、市民相談の掲示板でございますが、大変古くなつたということでございますが、市の皆さんのお考えは、非常に正直とは申しませんが、すぐにもそういった古くなってしまったものなればつくればいいわけで、市民が市役所に来た印象、感覚というのは、非常に中にはやと相談に来る方もおるわけです。おどおどしながら、相談しようか、どうしようかという方もおるわけですね。本当に市民本位というイメージからも私は非常に大事だと思ふ。簡単に取つたということは申さないまでも、それが古くなったからには新しいものをすぐやるぐらいの体制、それぐらいの御気持をひとつ、実際にやっていたいただきたい。

先ほどは、早速それを掲示するというところでございますので、その点よろしく願ひしたいわけでございますが、内容は、前回

は、はがきでも御電話でも御通知くださいというよりなことであったと思いますが、今度どんなふうな内容の掲示を、案内板をおつくりになられるか。お考えがあったら、それをお聞かせいただきたい。

○秘書課長（斉藤武男君） 先ほど、市長からお話がございましたように、住民サイドにたちました行政ということが基本でございますので、当初の掲示してございましたように、電話でも文書でも、いつでも御相談に應ずるような体制をとりたい。そういうような趣旨のものを掲示してまいりたいと思いますので、よろしく  
○一六番（安西益男君） 大変ひとつ、誠意あるお答えでございますので、よろしくその点お願いしたいと思います。

それから、もうちょっと小学校のことについてお聞かせいただきたいんですが、一年生に上りますと、机に各引き出しが各自つくるなり、あるいは買なりして持って行くということで、この点が非常に必要ならば、また必要だと思ひますけれども、これは一応同じものを当局として用意願えないかどうか。これがまじまじだということも、その時点でも非常にちぐはぐでありますので、どうか必要なものならば毎年いるものでありましようから御用意していただきたい。このように思ひわけですが、その点どんなものか。そういった点等も御検討願ひたいと思ひわけですが、いかがでしょうか。引き出しの件ですが、いかがですか。

○学校教育課長（佐野啓男君） お尋ねの引き出しということでございますが、市内の小学校全部同じ机を使つておるわけでございます。現在よその学校ではそういった問題はございませんが、学校を回りますと、北条小学校の子供の低学年の子供の机には、



確かにボール箱へきれいな広告用紙等を張りまして、体裁をよくして机の中に入れております。この机は現在個人用の机でございましていろいろあるわけでございます。二とおりございましてふたがあくのと、あかないのございます。ふたがあくのは、ちゅうど四分の一ぐらいのところふたと台との切れ目が生ずるわけでございます。つまり、ふたをあけますと、あけて十センチぐらいの残るわけです。閉めるとそこにすき間ができる。机の限られた広さの中で作業をするのにすき間が非常にじゃまになると狭く使わなければならない。

現在、入ってる机は、こういうふたがあかないわけでございます。固定しておりますから机の表面積の広さは十分使えるということでございます。あくのが中が箱になっているわけでございます。固定されているのは物を出し入れするんですから、ことがあいてるわけです。そういった机が全部入っております。つまり、机の上を、広さを十分使うという趣旨からいまの机が入っているわけでございます。

一応、子供たちは道具をここに入れるわけでございますが、これはどういうことで出発したか。詳しくは聞いてございませんけれども、大体ボールの箱でございます。何か、かん詰め等が入っておったり、家庭の台所用品の詰め合わせのセットの入ったああいう廃品のボール箱を、広告用紙等を周りに張りまして細工をして廃物利用という形で、一応それぞれのところに全く個人の自由なそれぞれの形のもが入ってるわけでございまして、現在それが使われておるといふことでございます。

○一六番(安西益男君)　そういつたふうに、北条小の一年生の机

がみんな平らですね。皆さんまちまちのものがあるわけですからそういつたものを一様につくっておいたらどうかということの要望なんです。それが用意できるのかどうかということなんです。その点、確認願いたいんですが、どうでしょう。

○学校教育課長(佐野啓男君)　一応それを全部の学校の学年の子供たちにそういう引き出しを用意するという考えはございません。全く自分の持ち物を自分の独自の発想で整えるということでは創意工夫ということで結構だろうと思いますが、一斉に同一企画のものでということはお考えありません。

○一六番(安西益男君)　その創意工夫というのが一年生ですかなかなか実態はできない。町で買って来たり、そういう方が多いわけですから、これは何が何でもということではありませんので検討していい方法を取っていただきたいと思います。

時間でございますので、以上で終了です。

○議長(吉田勇治郎君)　以上で、一六番議員君の質問を終わります。次、一五番議員辻田実君。

(一五番議員辻田実君登壇)(拍手)

○一五番(辻田実君)　本日の最後の質問者となり、幾つかの点で同趣旨の質問が終っておりますので、重複しないように質問をいたしたいと思っております。

まず最初に、館山市の政治姿勢についてお伺いをいたしたいと思います。

昭和四十年代は、日本経済の大きな成長期でありました。しかし、館山市は逆にこの犠牲となり過疎化が進み、人口も昭和三十年前後を最高に年々わずかではございますけれども、減少してき



ております。そうして、市民の最大の願望であつた十万都市構想も夢物語に消え去つております。

しかし、こうした状況の中で、北条、館山地区の市街地の人口は、わずかながらではございますが、増加をしております。このことは、北条小学校、館山小学校の生徒数にも歴然とあらわれております。

その反面、昭和二十九年五月三日に館山市に合併された西岬村を始め旧六カ村の人口は、大きく減少をいたしておるのでございます。

人口の減少は、同時に旧六カ村の生産の中心であつた農業と漁業の基盤をも破壊しておるのでございます。生産活動の面だけでなく、学校を始め公共施設も市街地に集中され、荒廃をし、見るにしのびない現状でございます。市役所の機構も近代化されておりますけれども、印鑑証明を一通もらうにしても、老人や幼児の福祉対策を取つても、交通費と時間的浪費を考えると大きな差が生まれております。会議の開催、商業活動、観光行政も市街地中心に片寄り過ぎてゐる感じがいたすのでございます。

したがって、これらの点について、合併した原点に立つて再検討する必要があると思われませんが、市長の所信を具体的にお聞かせ願ひたいと思ひます。

次に、校舎の建築についてお伺いをいたします。

館山市は、館山小学校の防音校舎の建築を皮切りに二中、一中と現在建設が進んでおります。財政難の中で、補助率の高い防衛庁の補助はありがたいことではありますが、工事期間が長期にわたり、この間の教育面に与える影響は非常に大きなものがござい

ます。何とかして短縮し、完成させることができないものでしょうか。お伺ひしたいのでございます。

特に、建設に入つて四年余を過ぎた館山小学校の建設はなぜいまだにできないのか。具体的に御説明をお願いいたしたいと存じます。

また、市内の小中学校のほとんどにプールは建設されております。館山小の学区民の願ひは一日も早くプールができることを望んでおります。どうしたら他の学校のように早く実現できるのか。お教えを願ひたいと思ひます。

さらに、二中の講堂建築についても、体育館兼用の生徒数に比例したものを建てたいとして、PTAを中心に昨年来期成会が結成され、活動がなされております。この熱意と願望は非常に強いものであり、なお積極的なものが見られます。このことは市当局においてもよく理解されていることと存じますが、この二中の講堂兼体育館の建設にはどのように対応されていく計画があるのか。お伺ひしたいわけでございます。

続いて、三番目の質問に移ります。館山高校の高井地区への移転は当初昭和五十二年四月ということ、現在の学校を四十九年に館山市は購入いたしております。

しかし、現況から見て物理的にも移転は不可能のようでございます。不可能というより三、四年先に実現の見込みがあるのか。この点については、先ほど林議員の質問にもございましたけれども、明確にされていませんので、再度質問をいたすところでございます。

館山市としては多くの市民が二、三年先には館高の移転ができ



るものと信じ、期待をいたしております。そこで、市長は昭和四十年に現在の館山高校を市立から県立に移管したときの校舎建築の際に要する負担割合については、当時の館山市の教育委員としてよく知ることと存じます。そこで、現在の校舎建築を目前にして、この財源処置をいかに対処されていこうとなされておるのか。お伺いをしたいのでございます。

また、館山高校の購入は、現在の高校の購入は四十九年度に議決されましたが、開発公社で現在立て替えている金額並びに五十一年度の支払い利息額はどのぐらいか。その数字を明らかにしたいでございます。

と同時に、館山高校の使用料徴収については、いまだに徴収のめどがついておらないように先ほどお伺いいたしました。この六月議会では各種の使用料金をおおむね二倍程度に値上げをしようとしているわけでございます。それだけに、この問題は大きな矛盾を感じるのでございます。売買基本協定によりますと、三年目の来年四月には移転するということになっておるということを伺ったわけでございますけれども、三年目の来年まで残りわずかでございますけれども、この移転問題をどのように考えておるのか。合わせてお伺いしたいと思います。

また、館山一中は来年には移転できるとのことでございます。そこで、その跡地利用について、前市長の本間さんは、観光事業計画に基づいた売買をする計画をいたしておりました。半澤市長は、過般の議会で、この一中跡地を保有し、再検討していくことを答弁されております。移転を間近にひかえてどのようにするお考えか、もうそろそろ一定の考え方が出てもよろしいかと思うわ

けでございますけれども、所信をお伺いしたいところでございます。

三中の設立問題による学区の再編成作業がいまだになされておらない事情は何か。先般の林議員の質問で明確にされておりましたので、再度お伺いいたします。

最後に、国道一二七号線バイパスについて御質問をいたします。最近、市内にバイパス線に対して反対する会と賛成する期成会が相次いでできておりますことは新聞報道によって明らかでございます。この賛否両論の会にはそれぞれの考え方と根拠があると思われれます。

市長は、先ほどの渡辺議員の質問に対して、現在の計画が最良であると思うという答弁がなされております。しかし、私は現時点においてはこれらの問題についてもっと広い範囲で再検討をしていく中において、よりベターなものにしていく必要はないかと思われるわけでございますけれども、この点について市長のお考えはどうか。お伺いしたいわけでございます。

また、バイパス線建設に際しては、直接本体工事は国費、県費でまかなわれるとのことでございます。しかし、工事着工と予算の支出に当たっては時間的な間隔があるのが通例でございます。この間の運転資金の立て替えは地元で行うというのが従来の状況でございます。

さらには、バイパス線設置によるこの農地を通過することによって、農地の区画の整理、さらには民家の移転、そうしてバイパス線を通るところの用水、排水、さらには道路の変更等多くの地元負担でなされなければならない経費があると思うのでこ



ございますが、これらの経費についてはどのぐらいかかるのか。その点について検討されておるのか。その点についてお伺いしたいと思います。

現在、財政難で、緊急に対処しなければならぬ学校を初め上水、下水、道路、衛生施設に至る公共事業の兼ね合いから見て、バイパス線建設に財政支出を急がなければならぬ館山市のメリットはどこにあるのか。この点についてお伺いいたします。

バイパス線の建設と同時に、市内の都市計画もこれに対応して早急に実施に着手しなければこのバイパス線の意味がなくなると思います。したがって、バイパス線建設と同時に、いまたな上げされておるところの、このバイパス線につながるところの幾多の都市計画建設の実現を早急にしくは、このバイパス線の意味はございません。

こうした点に対して、どのような予算準備をなされるのか。そして、建設に当たって予算的な対応をどのような形で対処されるのか。具体的にお伺いしたいわけでございます。

以上の点について、通告をいたす次第でございます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 辻田議員さんの御質問にお答えいたします。

第一点は、市街地中心の行政に行き過ぎはないかという御質問でございますが、御趣旨は市行政が市街地中心過ぎはしないか。そういう御意見のようでございますけれども、決してそのようなことはないと思っております。

漁業地域には、漁業地域に即した特有の行政需要がございますし、農業地帯にはそれなりの要請がございます。また、商業地域

にはそれ相応の施策を必要とするわけで、それぞれ異質でございます。これを比較し、どのような偏行性が見られるかという判断は非常に困難であろうかと考えられますけれども、それぞれの産業、施設が並行して発展していけるよう配慮をしながら、時宜に応じた事業を施行していくことが行政であり、そのように努力いたしておる次第でございます。

ただ、行政施設の現況段階におきましては、たとえば、御指摘のように、小学校校舎等の現状比較からいたしますと、一部格差を指摘される面もあるわけでございますけれども、これらは年次のなるべく早く、計画的に解消をしていく方針で努力中でございますが、その順位等も純然たる建物の腐朽度や危険度によって行っているわけでございまして、市街地偏向というようことは絶対にございません。

第二点の防音校舎と二中、館山小の講堂建築についてでございますが、その第一点は、防音校舎の建築が長期間にわたる理由についてということでございますが、当市における学校の防音改築は四十六年度以降実施してきておるわけでございますが、防衛施設庁の補助金交付に当たって、その考え方の中に、まず第一に、一市町村一年一校の着工ということがございます。第二点として、二千平方メートル以上の改築は二年度にわたって施行する。第三点として、工事は継続的な事業も各工事年度それぞれを単年度事業とみなして補助金を交付する。第四点といたしまして、一市町村に単年度集中して多額の補助金がいかにように、そういう配慮をする。

そういったようなことがあるようでございまして、館山小学校



の改築は三カ年を要しましたし、二中は石油ショックの影響もあってのこととございましたけれども四カ年で。また、一中は三カ年でそれぞれ建設せざるを得なかったような状況でございます。

二中の講堂と体育館の建築についてでございますが、二中の講堂と体育館の建築につきましては、生徒の利用面と社会体育施設の利用を合わせて考慮して、今後学校側と検討を進めてまいりたいと考えております。

館山小の講堂とプールの建設についてでございますが、館山小の講堂の防音改築につきましては、すでに四十九年度設計を終え防音の補助金交付の決定を待っているわけでございます。補助金の確定次第、建築に着手する所存でございます。

水泳プールの建設は、講堂改築に続いて実施をいたしたいと考えております。

第三点の館山高校、館山一中の移転と跡地利用についてのことでございますが、第一点は、館山高校の移転の時期と館山市の負担金の見込みについてでございますが、館山高校の移転の時期につきましては、林議員にお答えいたしましたとおり、本年度中に埋め立てを完了し、引き続いて二年間で建築をするという計画のように聞いておりますけれども、いづれにいたしましても、まだはつきりいたしておりませんので、積極的にこれを促進するよう要請をしていくつもりでございます。

また、その移転に際しましては、特に本市が負担金の支出を要するということとでございます。

第二点の館山高校と一中の跡地利用についてでございますけれども、館山高校及び一中の跡地利用については現在決定を見てい

ないわけでございますけれども、これは当然市の長期的な総合計画の中で定められなければならない問題でございますので、議会側の皆さま方と十分話し合った上で、慎重に検討してまいりたいと考えております。

第三点は、館山高校の使用料と市の開発公社の資金運営状況についてでございますけれども、館山高校の県の使用料は無料であるということとは林議員にお答えいたしましたとおりでございます。

館山高校払い下げの一切の経費は市の開発公社で支払いたし市が昭和五十九年度までに年賦をもって公社に支払っていく計画であります。市の財政事情から支払いが開始されていないわけでございます。

開発公社は、昭和四十八年十一月下旬から翌年一月十日までの間に、市中銀行から融資を受けまして、これに対する支払い額三億五千九百四十三万円と利子額の累計は、本年三月末日現在において四億千三百二十五万円余りとなっております。

このような事情もございしますので、もし館高の移転が遅れるような場合には、積極的に応分の措置を県に要請していきたいと考えております。

質問の第四点は、国道一二七号線バイパスと都市計画について。その第一点は、バイパス線に反対と賛成の期成会ができたが、市はどう対処されるかという質問でございますが、バイパス建設は沿道の関係市町村が早期実現を期して運動してきたものであり、多くの市民はこのバイパス建設が一日も早く実現されることを望んでおりますので、市としては国の計画に協力していく考えでございます。



一部の反対の人々については、それらの人々と国とのパイプ役を努めていきたいというふうに考えております。

第二点は、パイプ建設に対応した都市計画といふことでございますが、建設省では一二七号線館山バイパスの計画について昭和四十六年度より調査を実施し、昨年計画を発表いたしました。この計画は、館山市の都市計画をこわすことなく、十分整合するように計画立案されておりますので、市としては現在の都市計画を尊重してまいりたいというふうに考えております。

この実施に伴います経費につきましては、まだ計画が、事業そのものが進行いたしておりませんので、今後どの程度の経費がかかるかということについては、まだ計算はされていないわけでございます。したがって、予算の関係についてもここで申し上げるわけにはまいらないわけでございますが、工事の進行に合わせて予算を考えていきたいというふうに考えております。

以上答弁を終わります。

○一五番（辻田 実君） それでは、一項から逐次お伺いをいたします。

市街地中心の行政に行き過ぎはないかという点について質問したわけでございますけれども、市街地と農村部におきますところの行政については異質のものがあるので、これは並行的には考えていないということでございますけれども、学校の老朽化の現状については年次的に危険度からということでございますけれども、この点については危険度からいって放置されている多くの学校があるかと思えますけれども、この点については言葉的には年次的ということを言われておりますけれども、現実的に

はこの面はどう解消するのか。

たとえば、豊房、西岬こういうところについては非常に危険校舎が多々ございます。これらはいま建設過程にある中においても早急に解消されなければならぬ学校だと思っております。そのほかにおいても多くの学校が、旧村は非常に古くなっておりますけれども、この点をどのように考えるか。

二番目に、当初合併当時は旧六力村については出張所というものがございまして、戸籍謄本とか抄本、そういうような関係のものは配慮されておりました。現実的にはそういうものはございせん。多く旧六力村にまゐりますと、館山市に合併されてだんだん色合いが悪くなつてきて、老人福祉年金をもらいに來るにしても、幼児の医療費の給付をもらいに行つても、また病院等においても市街地中心になつてしまつて、旧六力村にはほとんどない。九重等にはございますけれども、そういった点の苦情等もあるわけでございますけれども、こうした点について、印鑑証明一通また老人や幼児のいろんな補助制度そのものが現実的には非常に不利益な扱いを受けているわけでございますけれども、これらの点についてはどのように考えているのか。簡単に御答弁いただけますか。

○市長（半澤良一君） 小学校の改築計画につきましては、これは教育長の方から御答弁を。委員会から御答弁申し上げますけれども、実際に従来行つてきました鉄筋化にいたしましたも、一番最初にいたしましたのは神戸小学校でございます。それに引き続いて房南中学校、木造でございましたけれども、全面改築をいたしました。その次に北条小学校を行つたわけでございますが、そのあ



とには豊房小学校を改築している。そういう実情でございました。決して、その順序から見ましても、市街地を中心にして物を考えていないことはおわかりになっていただけると思います。

また、印鑑証明、その他老人保護費、乳児医療費、いろんなことについて、市役所まで出て来なければいけないので大変だということでございますが、確かにごもつともでございますけれどもそれはしかし、統合することによってそれぞれ役場等の経費を節減し、さらに強力な施策が行われるという意味で、統合が行われたわけでございますので、そういう意味のメリットも多分にあるわけでございます。

確かに、そういうわざわざ出てくるための経費もかかることは市街地に住んでる方々に比べれば不利益な点もございますけれども、そういうった点を総合的に考えますと、決して農村部が行政上不利益な待遇を受けているということはないと考えております。

○教育委員会庶務課長（汐崎政光君） 小学校におきます校舎の老朽化の問題でございしますけれども、ただいま校舎の五〇％以上が老朽化しております学校は、小学校においては四校あるわけでございます。

その中の一校は那古小でございしますけれども、この那古はすでに設計を終え、今年度ないし来年度から工事着工する運びの計画を持っているわけでございますが、他の三校につきましては、中学校の統合問題と関係がありますので、その中学校の統合問題を押し進める中で検討されなければならぬといったふうな状況のもとに、現在統合問題の検討をしているわけでございます。

○一五番（辻田 実君） この点については、市長の立場に立ちま

すると、ある程度平等に行い、そうしてその統合のメリットもあるということでございますので、この点については実感といまして、多くの六カ村地域においては非常にそういった役所の事務の統一、合理化こういった面についての経費の節減、これらがほとんど還元されてきてないというのが多くの実感として出されておるわけでございます。そういった点については地域の人たちの実感でございますから、市長の実感と違うということであればいたし方がございませんので、そこらへんについては今後大いに旧六カ村地域のそういった意見については耳を傾けて、市政のみぞをうずめるように要望して、この項については平行線をたどりますので、次に移りたいと思います。

館山小学校の講堂については実施計画並びに昨年の九月の議会でもって質問いたした際には、間もなく五十年度予算において国庫の補助金のつき次第建設すると。こういうことで答弁になったわけでございます。

また同じことが、今年の議会の当初予算の中でもって予算のつき次第と、こういうことになっておるわけでございますけれども、どうも、この計画についてこのように遅れがあるようでございますけれども、大東亜戦争と同じでもって、戦争勝つ勝つというのが、いつの間にか負けたというふうな、こういうたぐいの行政の感が非常に強いわけでございます。この点についてはもうそろそろ二年遅れになるわけですから、今年でできないということになりますと、この点についてはどういうわけなのか。国庫補助金がつかないということで毎年毎年繰り返されたのでは、私は非常に教育問題だけに困るというふうに思うわけでございます。



ども、この点についてはどうか。

さらに、館山小学校のプールにつきましては、五十一年度実施ということがすでに実施計画等において明確になっておるわけでございます。

ただいまの答弁でございますと、要するに講堂ができたあとということですが、講堂ができなかったのはどういふことかわかりませんけれども、国の補助がおりないということは、同時に市長にしてみれば、国の補助金をもらえなかったという責任は市民に対してすべきであり、市民は国の補助金をもらおうが、もらえないが、市長がこれをやるという約束したことは、市長と市民の関係の問題があるわけでございますから、そこらへんについては市長の一つ一つの施策については責任を持っていただかなければ困ることでございまして、そういう意味においては、館山小学校の講堂が補助金がつかないために昨年度実施できないということであれば、今年度当然実施時期にあるところのプールの建設に先に着手しても何らの問題はなからうかと思うわけでございますけれども、今年度すでに実施計画については、館山小学校のプールが実施される。着工になる計画になっておりながら、それがさらに講堂ができないということになれば、さらに二年、三年先に延びるということになってしまふわけでございまして、この点については、実施計画を策定しておきながら、こうしたものが二年、三年と平然と見送られているようなことについては、どのような責任を感じられるのか。また、どのようにこれに対処されるか。御答弁をいただきたいと思うわけでございます。

○教育委員会庶務課長（汐崎政光君） 館山小学校の講堂の防音改

築の件でございますけれども、これは四十九年に設計がすでに終っている。これは御指摘のとおりでございます。

従来の防音改築の方向としますと、設計のつきました翌年には工事ができる。こういった歩みをしておったわけでございますけれども、ここにきまして、国の方のこういった防音改築への要望も相当数の市町村からなされている。そういった実情の中で、補助金のワクの関係もございまして、延びているというのが実情でございます。

今年度、館山市におきましては一中、二中の工事関係についての補助金が、総体でまだはつきりしませんけれども、二億四、五千万見当くるんじゃないかと思われませんが、館山を管轄しております東京防衛施設局の防音関係の総予算が総体で三十億見当だそりでございます。関係市町村が全部で六十市町村ある。こういったことから、一市町村に多額の補助金が回わることはいろいろな誤解が生まれるといったふうなことで、防衛施設庁の一次の実施計画という段階ではこれを認めるわけにはいかない。こういったふうな段階で、現在二次、三次の施設庁の方におきます計画が持たれることを期待して待つておる。こういったことが実情でございます。

それから、館山小のプールの建設の件でございますけれども、この件につきましても、いろんな他の学校施設建設の問題とからみ合わせまして、御指摘のように早く建てべきものではございませんけれども、財源上の理由もございまして、まずこの講堂の目ぼしを立て、その工事をした次にプールの建設をしたい。そのように考えてございます。



〇一五番（辻田 実君） その点については了解いたします。

二中の講堂建築につきましては、計画で見ますと、五十一年から五十二年にわたって建設することとございますけれども、いまだにそのめどが見えておりません。

したがって、先ほども申し上げましたように、二中のPTAを中心といたしまして期成会が持たれておる。期成会においてはすでに昨年十数万円使って陳情もなされておる。本年度も二十万弱の予算を計上いたしまして、講堂建築の陳情運動がなされておることとございますけれども、この陳情の成果はあるのかないのか、また、そうしたことについて、なぜそういう期成会ができなければならないのか。その点についてどのように考えておるのか。館山市の中においてこれらが論議されなくて、そうしてそういう期成会等にPTAの金が多額に使用される中において行われておることは健全な状態だというふうには見受けられないわけでございますけれども、この点についてはどのように考えておるか。

館山小学校のプールについては、講堂の建設後だということとございますけれども、いまだに館山小学校についてはヤードプールが使用されておったわけでございますけれども、昨年からヤードプールが使えません。本年度も使えません。そうして、この館山小学校のあの数、多くの生徒の水泳実習をどう考えておるのか。そうして、館山海岸におきますところの水泳というものが不適格であるということもあって、いろいろと困っておるわけでございまして、この事情は昨年から今年にかけて非常に大きく変わっております。

こうした中において、講堂を建てたのちでなければならないという理由は、私はあまりにも教育に対して軽薄過ぎるんじゃないか。五十一年度実施計画ですから、その計画を忠実に実行ということが市政の市民に対する信頼であって、館山市の多くの計画があつてないようなもの。

そうして、館山高校の移転にしても、あらゆるものが五十二年四月移転とか云々と言われておつても、実際には四年、五年遅れでも平然としている。こういう中で、市民として市政に対していま徐々に信頼を失おうとしている状況の中において、この問題がこのようななされているのかどうか。その点についてお伺いしたい。

それからもう一点は、市長に聞きたいわけでございますけれども、昨年の七月ですか、八月の新聞紙上に談話として載った中に、館山市においては非常に財政が困難だ。そうして、夏季の一時金を支給するに際して、一中の売却ができなかったために非常に困っておるんで、本来ならば防音校舎の設置も負担金もやめてそれらを対象にしなければならぬんだけど、しかしながらそれらを予算組んでしまったので云々ということが新聞に出ておりましたけれども、私は、このいま防音校舎で設置してあるところの、この校舎の問題については、むしろそうした市の負担金の能力の問題がやはり何ととっても、防音校舎の設置、建設を遅らしているのではないかというふうに思われますけれども、その点はないのかどうか。お伺いしたいわけでございます。

〇教育委員会庶務課長（汐崎政光君） 二中の体育館の件でございましてけれども、現在二中の講堂は総体面積七百九十九平米という



った広さのものでございます。あそこの講堂を体育館兼用して使用しているわけでございます。卓球、バドミントン、生徒会の集会とか、学年集会とか、体育面と文化活動合わせまして使用している。そういった面から、現在の講堂は講堂なりに十分その機能を果している。

しかしながら、最近にして、体育関係でバレーとか、籠球こういったものが従来は屋外運動場として考えられておりましたものが、室内競技として考えられるようになりまして、そういった面の使用がどうしても現在の講堂ではただいま申し上げましたような競技をやつてゐる関係から併用できない。

そういったことから、バレーにありましては北条小の講堂を使っている。籠球にありましては水産高校の体育館を使用している。そういったいろいろ間借りをしているという状況が何かとして不便だといったことから、急拠の体育館建設の要望が持ち上っている。そのように把握しているわけでございます。

一面、最近におきます市民の要望としまして、社会体育施設としての体育館の建設がこの中心部を中心に強く要望が出されているわけでございます。

そういったことから、学校の現在不足しております部分の使用させる面と、それから社会体育施設としての体育館、こういった二面の目的を持った体育館の構想が立てられないだろうかというふうなことを現在教育委員会におきまして検討中でございますし今後学校側とも十分検討して進めさせていただきたい。このように考えているわけでございます。

それから、館山小のプールの件でございますけれども、これは

市の財源事情とも関係するものでございますので、そのへん今後また検討させていただきたい。

それからもう一点の防音校舎の建築の遅れでございますけれども、これは市の財源事情と何ら関係がない。こういったことでございます。

○市長（半澤良一君） 昨年の七月か、八月かに夏季一時金を払いたいんだけれども、防音校舎の負担金を削っても夏季一時金を払いたいんだけれども、予算云々というお話でございましたけれども、そう申した事実はございませんし、そういう新聞を見た記憶もございませんので、もし、新聞がありましたら、お見せをいただきたいと思ひます。

○一五番（辻田 実君） その点については時間もございませんので、また後日にいたしまして、館山高校の移転に伴う点で二、三質問いたしたいと思ひます。

先ほど、答弁の中では、市長は県立高校移転としては、校舎建設に対しては特に負担はないということでございますけれども四十年に移管するときの契約書は、当時教育委員といたしまして市長見ているはずでございます。あれにはちゃんと明記されてあるわけでございますけれども、この点について、県の知事なり、県の担当官とその後あの協定書以外にこうした問題について確約されているのか。全く市長だけの思惑なのか。

このことは、館山だけでなくて、千倉町を初め周辺町村においてもそれらの問題が出ておりました。それは館山の市議会の中でもって議決されたことであるわけでございますから、それがいつ変わったのかどうか。その点についてはつきり明言できるのか。



こっちの希望的観測なのか。その点について明らかにしていただきたいと思います。

○市長（半澤良一君） 辻田議員が何を根拠にそう言われるのかわかりませんけれども、あのときの協定というのは県立移管の協定でございまして、移管してしまつたあとに館山高校が移転するかどうか。あるいは鉄筋化するかどうか。そういうことは何ら関係ございせんので、今回の移転についても市は一切負担はないわけでございます。

○一五番（辻田 実君） 移転するものではございませんけれども将来館山高校が木造から鉄筋校舎に建てかえをするときに、それに対する地元負担金云々ということが出されておることについてご存じのほすでございますけれども、その点についてはどうか。知っておるのか。知らないのか。その点について伺ひたいと思います。

○市長（半澤良一君） 議事進行上、休憩をお願いしたいと思います。

○議長（吉田勇治郎君） 暫時休憩いたします。

午後二時二十九分 休 憩  
午後三時 九分 再 開

○議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

○市長（半澤良一君） 館山高校の件でございすが、その県立移管に伴う条件として、当時の市長と県の教育委員会並びに知事との間に交わされた条件につきましては、このようになってゐるわけでございます。

館山高校敷地として将来拡張部分については県教育委員会と協

議し、逐次購入の上、提供する。

二 体育館の建設については五千二百二十万円の範囲内において、その三分の一を負担する。

三 特別教室、管理室及び工業科実習工場の不足部分を建設の場合は、総額五千七百万円の範囲内において、その三分の一を負担する。

四 将来、工業科、家政科及び商業科の設備充実のために要する費用については、総額七千万円の範囲内において、その十分の一を負担する。

五として、現在館山高等学校用として使用せる財産等については、これを県に寄付する。

こういう条件になっておりまして、この条件は、県立移管に伴う条件でございます。すべてこれを完了したしているものだと理解いたしております。でございますので、今回の移転につきましては、市は一切負担を負わないと、こういうふうに考えてゐるわけでございます。

以上、終ります。

○一五番（辻田 実君） 時間がございせんので、その点について、将来的に館高移転に伴うところの債務が消滅したというふうに市長の判断というんですか、責任ある判断をされておるわけでございますので、その点については一応そういうことで理解をいたしたいというふうに考えております。

次に、四番目の一二七号線バイパスと都市計画についてでございます。先ほどの答弁の中におきまして、市長は、現在の都市計画を尊重して実施していきたいということで、この点



については市民の要望が多くあるので、その上に立ってこれを推進したいということでございますので、この点については、私は意見として理解をいたしたいと思うわけでございます。

そこで、先ほど市長がこれから予算等については検討していかなければ、どの程度になるかということについてまだ検討してないということでございますけれども、この点について、私はちょっと無責任だと思っております。

先般報道されておる状況、少なくともこの期成会の結成、反対同盟の結成これらについてはもう現実の問題として、すぐ来年、再来年かには着工されるだろうという形の中でもって、大きく盛り上っていることについては理解されておると思うわけでございます。

となると、この国道の建設については少なくともいまの状況から言って二、三年先というんですか、そう遠くない先においてできるというふうに判断してよろしいかと思うわけでございますけれども、そのような判断でよろしいのかどうか。二、三年先には少なくとも着工にかかれるかどうかという、その見通しについてまずどのように考えておるのか。お伺いしたいと思うわけでございます。

○市長（半澤良一君） 工事主体が建設省でございますので、私ここでどうという、いつに着手できるというようなことは申し上げられないわけでございますが、二、三年のうちに着工することを望んでいるわけでございます。

○一五番（辻田 実君） たぶん、二、三年の間には望んだ行動だろうという、行動と言動がいろいろと見られるわけでございませ

て、その点についてはそのように理解したいと思ひます。

その上に立って質問したいわけでございませうけれども、先ほど質問いたしましたように、道路そのものについては私は国費でやると思ひますけれども、私もつい先般、予定地というところを田んぼの中を長靴はいて見てまいりましたけれども、いろんな民家とか、農地があるわけです。中央ダムの水とか、農業の水を落とすために、道路の下に排水管を入れたり、いろんなことをしなければならぬ。いま、つながっている道路を何らかの形でつて迂回させるなり、接続線をつくらなければ、道路一本つくれば全部オーライというわけではない。

さらには、都市計画を変更しないということでございますから、いま南高のところに接続した場合に、その接続と同時に関連的に館山市内におきますところの接続線とか、それから、いまでも南高から千葉銀行に入ってくるところの道路は渋滞しているから、そこに太いパイプがつかねば渋滞がもっと激しくなってくるだろう。あの道はいいとしても、もっと激しくなります。だから、これに対する館山市内の整備計画をしなければ、観光、産業の充実はできないのではないかと。

私は、専門家がございませうけれども、そうしたところの農地のつぶれていくところ、民家のつぶれていくところ、そういうところもある程度農業用地として使えるようにする。下水を流したり、用水を上から下に接続する。こういう経費だけでも数億かかるだろう。そろばん入れてみましたら読めるわけでございます。

ある専門的な人について、概算的には相当の金をしないと、道路ができて、もし、できたあとに道路の下に農業の排水管だと



か、中央用水の水だとか、橋とかそういうのをつくるということになり、三倍、四倍の経費がかかるから大変だろう。こういうことを言われておったわけでございますけれども、促進するからには、私はこうしたところの予算をやはりある程度計算して、そしてあの道路設置と同時に、そうしたところの市民の現実に被害をおおむる農地とか民家、そういう排水、用水そういうものについての工事を進めなければならぬんじゃないか。いま館山市には都市計画あるけれども、同時に進めなければ、あの道だけつくっても都市計画そのものは死んでしまいます。

そういう面では、あれをやるということになると、相当の予算を持つことになるわけでございますから、先ほど来、質問しておりますように、現在館山市は防音校舎を三校、さらには那古小学校をつくれれば、これに対するところの防音校舎の負担金も膨大な額でございます。さらには衛生処理場これももうバンク状態でございます。これについても数億という金を用意しなければなりません。さらには水道のダムができるならば、配管工事に対しては今度は補助金がずっと少なくなるから、これも数億の金を用意しなければ水は一般には入ってきません。さらには駅前の改築、また駅の改築云々ということを市長は先般の議会の中で表明されております。これについても数億というんですか、相当の金を要する問題でもございます。さらには一中の跡地の開発をどうするかという問題、さらには運動公園の建設については県で引き取ってくれればいざ知らず、先般の説明ですと、約十億以上の経費がかかる云々ということがある。あれも利息だけでも大変な額になっておる。

とういいますぐにやらなければ館山市の財政上、圧迫されているような大きな財政事情に対してどのように対処されるのか。この点については十分判断した上で、責任あるパイプス線に対しての態度を取っていきたいというふうに考えております。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、一五番議員君の質問を終わります。以上で、通告者による一般質問を終わります。

散

会 午後三時十七分散会

○議長（吉田勇治郎君） 本日の会議はこれにて散会といたします。次会は、明六月十五日午前十時開会といたします。その議事は各議案の内容審議といたします。

○本日の会議に付した事件

一、行政一般通告質問



